地質学雑誌　第115巻　第1号（通巻1360号）付録　　平成21年1月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.12 No.1 January 2009

取扱い地質図一覧（委託販売）　07/06月現在

表示価格は税込みです．会員には表示価格から消費税分を割り引いて販売いたします（代金後払い）．
ご注文はFAXまたはe-mailで地質学会事務局へお申し込み下さい．
FAX　03-5823-1156，e-mail　main@geosociety.jp

100万分の1日本地質図　第3版　4枚組　¥6, 300
100万分の1日本重力図（ブーゲー異常）　¥3, 885
地球化学アトラス　－北関東－　¥5, 565
200万分の1地質編集図
　コンピュータ編集による日本地質図（付記付き）¥2, 310
　日本の磁気図（説付き）　¥2, 520
300万分の1 日本列島地温勾配図　¥1, 680
数値地質図
　200万分の1東・東南アジアの数値地質図（説付き）　¥2, 625
　20万分の1数値地質図幅集
　　北海道北部　¥1, 050，北海道南部　¥1, 050　東北¥3, 045
　　関東甲信越及び伊豆小笠原諸島　¥2, 835
　日本の新生代火山岩の分布と産状　CD-ROM版　¥1, 260
　東・東南アジア都市域の地球科学データ CD-ROM版　¥1, 155
　日本地質図索引図（第1集～第8集　CD-ROM版1963～1999）　¥945
　北海道地質ガイドマップ　CD-ROM版　¥945
　東・東南アジア都市域の地球科学データ （第２版）CD-ROM版　¥1, 155
　富士火山地質図CD-ROM版　¥1, 155
　日本重力図CD-ROM版（説付き）　¥945
　400万分の1東アジア磁気異常図 CD-ROM版（第２版）　¥945
　400万分の1韓国南部・日本西部及び周辺海域の地球科学図集 CD-ROM版（第２版）　¥1, 050
　日本周辺海域音波探査データベース　CD-ROM版　¥945
　東北・九州地熱資源図CD-ROM版　¥945
特殊地質図
　東京湾とその周辺の地質　¥6, 195
　秋田地熱資源図　¥5, 040
　諏訪湖湖底堆積状況図（1：1.35万）　¥1, 575
　東海沖海底音響画像図（1：40万）　¥735
　札幌－岩内地域火山・鉱化熱水系分布図　¥3, 780
　札幌地熱資源図　¥4, 620
　青森地熱資源図　¥5, 145
50万分の1鉱物資源図
　北海道（東部, 西部）¥7, 140, 東北　¥4, 305,
　関東甲信越　¥4, 515, 中部近畿　¥4, 515,
50万分の1地質図幅
　旭　川（第2版）　¥2, 100
50万分の1活構造図
　東京（第2版）　¥3, 255, *京都（第2版）　¥3, 675
2.5万分の1地質構造図
　阿寺断層系ストリップマップ（説付き）¥2, 940
　中央構造線四国地域活断層ストリップマップ（説付き）¥4, 515
　中央構造線近畿地域活断層ストリップマップ　¥2, 415
　柳ヶ瀬－養老断層系ストリップマップ（1：10万）　¥2, 520
　糸魚川－静岡構造線活断層系ストリップマップ（1：10万）¥2, 520
　兵庫県南部地震に伴う地震断層ストリップマップ
　野島・小倉及び灘川地震断層－（1：1万, 説付き）¥3, 570
　花折断層ストリップマップ　¥2, 835
海洋地質図
　鳥取沖海底地質図（1：20万, 説付き）¥3, 990
　鳥取沖表層堆積図（1：23万, 説付き）¥3, 255
　室戸沖表層堆積図（1：20万, 説付き）¥2, 835
　経ヶ崎沖表層堆積図（1：20万, 説付き）¥3, 045
　下北半島沖海底地質図（1：20万, 説付き）¥3, 360
　経ヶ崎沖海底地質図（1：20万, 説付き）¥3, 570
　粟島周辺海底地質図（1：20万, 説付き）¥5, 460
　佐渡島北方表層堆積図（1：20万, 説付き）¥3, 675
　佐渡島北方海底地質図（1：20万, 説付き）¥4, 305
　豊後水道南方海底地質図（1：20万, 説付き）¥5, 040
　豊後水道南方表層堆積図（1：20万, 説付き）¥3, 885
　駿河湾海底地質図（1：20万, 説付き）¥5, 670
　ゲンタツ瀬海底地質図（1：20万, 説付き）¥4, 095
　塩屋崎沖海底地質図（1：20万, 説付き）　¥5, 250
　響灘表層堆積図（1：20万, 説付き）　¥3, 885
　ゲンタツ瀬表層堆積図（1：20万, 説付き）　¥3, 780
　日向灘表層堆積図（1：20万, 説付き）　¥3, 570
　塩屋埼沖海底地質図（1：20万, 説付き）　¥3, 570
　響灘表層堆積図（1：20万, 説付き）　¥3, 570
　能登半島西方表層堆積図（1：20万, 説付き）　¥3, 570
海外地球科学図　（英文）
　東・東南アジア熱流量図（1：500万）　¥2, 310
　中国モウス沙漠および周辺地域の水文環境図（1：50万, 説付き）¥7, 035
　韓国南部・日本西部及び周辺海域の地球科学図集　¥1, 365
　東アジア地質災害図　¥3, 675
重力図　（ブーゲー異常）1：20万
　青森地域　¥2, 100, 秋田地域　¥1, 470,
　山形地域　¥1, 400, 北上地域　¥2, 415,
　渡島地域　¥1, 700, 苫小牧地域　¥1, 575,
　札幌地域　¥1, 700, 帯広地域　¥1, 575,
　旭川地域　¥1, 500, 北見地域　¥1, 575,
　根室地域（2枚組）¥2, 520, 天北地域　¥1, 890,
　名寄地域　¥1, 890, 大分地域　¥1, 785
　福岡地域　¥2, 415
空中磁気図
　尖閣諸島海域　¥2, 100
　伊豆大島地域（1：5万）伊東周辺地域（1：2.5万）¥1, 050
　雲仙地域（1：5万）　¥1, 050
　西表島周辺地域（1：10万）　¥1, 050
　由利原地域高分解能空中磁気異常図（1：5万）　¥2, 730
火山地質図
　桜島火山（1：2.5万）¥1, 260, 有珠火山（1：2.5万）¥1, 155, 岩手火山　¥2, 730
　草津白根火山（1：2.5万）¥1, 575, 阿蘇火山（1：5万）¥1, 155, 三宅島　¥1, 890
　北海道駒ヶ岳火山（1：5万）¥1, 785, 浅間火山（1：5万）¥1, 785
　青ヶ島火山および伊豆諸島南方海底火山（1：1万, 1：65万）¥2, 625
　雲仙火山（1：2.5万）　¥1, 155, 那須火山（1：3万）　¥2, 205
　伊豆大島火山（1：2.5万）　¥1, 785, 霧島火山（1：5万）　¥1, 575
日本炭田図
　天草炭田地質図　¥7, 140
日本油田・ガス田図
　新潟県中部地域　¥3, 885
20万分の1地質図幅
　相川及び長岡の一部　¥1, 785, 青森　¥2, 310, 一関　¥3, 465,
　飯田（第2版）¥2, 415, 糸満及び久高島　¥3, 465, 厳原　¥1, 360, 岩内　¥2, 415,
　宇都宮　¥2, 730, 浦河　¥2, 625, 宇和島　¥2, 100, 岡山及び丸亀　¥2, 625,
　開聞岳及び黒島の一部　¥2, 520, 鹿児島　¥2, 520, 金沢　¥2, 730,
　唐津（第2版）¥2, 205, 岐阜　¥2, 730, 木本　¥1, 365, 熊本　¥2, 835,
　久米島　¥1, 890, 甲府　¥2, 940, 高梁　¥2, 520,
　高田　¥2, 730, 徳島（第2版）¥2, 100, 日光　¥2, 940, 富山　¥2, 415,
　長野　¥3, 045, 名寄　¥2, 310, 八丈島　¥1, 365, 八戸　¥2, 310,
　福岡　¥2, 520, 福島　¥3, 675, 水戸　¥2, 730, 宮崎　¥2, 625, 村上　¥2, 730,
　夕張岳　¥2, 520, 和歌山　¥2, 625
5万分の1地質図幅　地質図1：5万, 地域地質研究報告
　赤名　¥2, 835, 姉崎　¥3, 570, 秋田　¥1, 890,
　飯山　¥5, 775, 出雲崎　¥3, 360, 市野瀬　¥2, 520, 犬飼　¥3, 570,
　伊平屋島及び伊是名島　¥1, 890, 今市　¥3, 045,
　上野　¥4, 200, 浦郷　¥3, 360,
　恵比島　¥2, 940, 大分　¥3, 990, 大阪西南部　¥2, 520,
　大阪西北部　¥2, 520, 大阪東南部　¥3, 570, 大阪東北部　¥3, 990,
　大須　¥2, 520, 小値賀島及び肥前平島　¥2, 520, 大宮　¥3, 045,
　尾鈴山　¥3, 675, 折尾　¥3, 150, 海田市　¥2, 835, 開聞岳¥3, 885, 柿崎¥3, 465,
　柏崎　¥4, 410, 金山　¥3, 255, 川前及び井出　¥6, 300, 上高地　¥3, 675,
　刈和野　¥2, 520, 岸和田　¥3, 885, 木曽福島　¥4, 200, 北小松　¥4, 095,
　岐阜　¥3, 885, 京都東北部　¥3, 885, 珠州岬，能登飯田及び宝立山　¥4, 620,
　熊川　¥3, 780, 熊田　¥3, 465,
　倉橋島及び柱島　¥3, 045, 黒石　¥3, 570, 桑名　¥3, 360,
　下呂　¥2, 835, 神浦　¥2, 940, 神戸　¥3, 255, 小倉　¥3, 885,
　佐伯　¥3, 150, 佐賀関　¥2, 730, 桜井　¥4, 200, 篠山　¥3, 045,
　三条　¥4, 305, 椎葉村　¥4, 515, 志津川　¥4, 305, 清水　¥2, 835,
　白馬岳　¥3, 730, 末吉　¥3, 255, 須磨（2版）¥2, 520,
　洲本　¥2, 730, 千厩　¥3, 045, 相馬中村　¥5, 355, 園部　¥3, 045, 高遠　¥4, 410,
　田島　¥3, 675, 龍野　¥3, 570, 立山　¥4, 935, 館山　¥3, 675,
　玉庭　¥4, 515, 竹生島　¥2, 940, 津西部　¥4, 305 敦賀　¥3, 780,
　十勝池田　¥3, 570, 戸隠　¥4, 410, 砥用　¥6, 195, 豊岡　¥2, 520, 十和田　¥3, 780,
　苗場山　¥2, 835, 長岡　¥4, 200, 中野　¥2, 625, 那古　¥1, 890,
　那覇及び沖縄市南部　¥3, 570, 名張　¥3, 360,
　浪江及び磐城富岡　¥3, 465, 奈良　¥3, 885, 西津　¥4, 305, 二本松　¥3, 045,
　乗鞍岳　¥3, 360, 八海山　¥2, 835, 姫島　¥2, 730, 広島　¥1, 575,
　広根　¥3, 675, 福江　¥2, 730, 福知山　¥3, 360, 富津　¥6, 615, 豊後枠築　¥4, 095,
　北条　¥4, 200, 松江　¥3, 465,
　松之山温泉　¥3, 885, 三重町　¥3, 360, 御岳昇仙峡　¥2, 940, 三津　¥2, 625,
　美濃　¥2, 520, 宮下　¥3, 780, 宮原　¥4, 725, 槍ヶ岳
　¥3, 045, 温泉津及び江津　¥4, 410, 湯湾　¥3, 360, 横山　¥3, 885, 四ッ谷
　¥2, 625, 四日市　¥2, 835, 寄居　¥3, 150, 和歌山及び尾崎　¥2, 415

*このほかの地質図, 産総研地質調査総合センター出版物の詳細は以下のホームページhttp://www.aist.go.jp/GSJ/Map/でご覧になれます．

日本地質学会*News*

Vol.12 No.1 January 2009

The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル ６F
編集委員長　坂口有人
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

planetearth® Earth Sciences for Society 2007 – 2009

岡山大会トピックセッション募集中

募集締切　２月13日（金）

詳しくは，ニュース誌10月号または学会HPをご参照下さい．

Contents

表紙紹介
瑞浪層群の珪化木（岐阜県）（西本昌司・白尾元理） ……1

2009年の年頭に当たって
（日本地質学会会長・代表理事　宮下純夫） ……2

2009年度役員ならびに代議員選挙の実施（告示）延期の決定について
一般社団法人 日本地質学会　定款 ……3

地球惑星科学連合の個人会員登録について ……9

岡山大会ニュースNo.2 ……10
日本地質学会第116年学術大会：2009年９月４日（金）～６日（日）
西日本支部岡山理科大学にて開催

案内 ……11
日本堆積学会2009年京都枚方大会のご案内と講演募集/日本地球惑星科学連合2009年大会

公募 ……11
東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教員公募/公募結果

訃報 ……11

紹介 ……12
地球・環境・資源：地球と人類の共生をめざして　内田悦生・高木秀雄　編（林　広樹）/カイミジンコに聞いたこと　花井哲郎著（安藤寿男）

学協会・研究会報告 ……14
第４回IGCP516国際シンポジウムおよび巡検参加報告（上久保寛・菅森義晃）

特集：地質学に基づいて，地質学を活かして ……16
－どんな職業につきたいですか－Vol. 6
犯罪捜査と地質学の意外なつながり（杉田律子）/新聞記者の仕事（佐々木英輔）

委員会だより ……18
日本地質学会男女共同参画委員　金沢ワークショップご案内「燃える温泉と地滑りのメッカ－地質学と町おこし－」に参加しませんか？

専門部会だより ……18
構造地質部会2008年度例会のご案内

支部コーナー ……18
西日本支部　第157回西日本支部例会および平成2008年度支部総会のご案内

松本徵夫名誉会員，第９回秩父宮記念山岳賞受賞（加納　隆） ……19

地学教育のページ ……20
埼玉県における高校地学教員の活動（小幡喜一）

CALENDAR ……21

院生コーナー ……22
AGU Chapman Conference on Shallow Mantle Composition and Dynamics Fifth International Orogenic Lherzolite Conference（長島僚子）

専門部会登録のお願い ……23

2009年会費払込について/2008年岩手・宮城内陸地震等の災害に関連した会費の特別措置のお知らせ/2009年度院生割引申請受付中 ……24

表紙紹介

瑞浪層群の珪化木（岐阜県）

解説：**西本昌司**　写真：**白尾元理**

森の中に横たわっている大木は，倒木ではなく珪化木である．長さ11mにもなるこの珪化木はメタセコイアだといわれており，岐阜県の天然記念物に指定されている．岐阜県美濃加茂市周辺に分布する瑞浪層群蜂屋累層（中新統）の自破砕溶岩を含む凝灰角礫岩からは，多くの珪化木を産出するが，その中でも最大級のものである．溶岩の気泡中の沸石類とともに約20Maの火山活動による熱水系の成立を示唆している．

事務局営業カレンダー

お休み　＊印は振替休日です

1月/January

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5*	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30*	31

2月/February

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9*	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

広告一部取扱：株式会社廣業社
〒104－0061 東京都中央区銀座8－2－9　電話 03－3571－0997　　印刷・製本：日本印刷株式会社

巻頭 2009年の年頭に当たって

日本地質学会会長・代表理事

宮下純夫

新しい年2009年が始まりました．地質学会理事会を代表して会員の皆様に年頭のご挨拶を申し上げます．昨年は洞爺湖サミットで地球環境問題・温暖化問題が大きく取り上げられ，社会の関心が大きく高まりました．しかし，石油価格の大高騰に引き続く世界経済の大混乱と石油価格の急落，円の急騰，世界恐慌ともいえる深刻な経済危機の状況が続いています．

さて，昨年末の12月１日に，一般社団法人日本地質学会がスタートしました．ただし，引き継ぎ上の実務的な理由により，当分の間従来の任意団体としての地質学会も存続させ，公益認定への申請を行ないながら実務面の準備が整った段階で任意団体を解散するという２段階になります．従って任意団体の解散までは，従来の業務を行う任意団体と公益法人化の準備作業を進める一般社団法人が並立しているということになりますが，今後の学会運営は公益法人にふさわしいように進められる事になります．一般社団法人日本地質学会は，法の規定により運営され，これまでとは組織も名称も異なります．例えば従来の評議員会は理事会へ，理事会は執行理事会へと変更されます．しかし，長年にわたる日本地質学会の運営の伝統の精神を生かせるように制度設計が工夫されています．

さて，最近の大規模自然災害の頻発や地球環境問題の深刻化など，地質学の社会的重要性はますます増大しています．石油や資源の枯渇も深刻な問題で，自然災害予測とその対策や長期的戦略を策定する上でも，地球を深く理解することが重要です．国際地球惑星年（IYPE）の企画の一つとして，産総研などとの協力のもとに，昨年から地質の日（５月10日）が設定されました．記念イベントでは大変な盛り上がりでした．地質の日に関してはロゴマークも決定され，今後もますます記念事業の発展が期待されます．また，世界ジオパーク・日本ジオパーク制定運動が自治体との協力・連携のもとに進められており，2009年後半にはユネスコにより日本で初の世界ジオパークが，また国内独自の日本ジオパークが７カ所（アポイ岳，洞爺湖有珠山，糸魚川，南アルプス（中央構造線），山陰海岸，室戸，島原半島）認定される事になっており，大きな社会的関心を呼ぶ事は間違いありません．

地球への関心が大きく高まっている事を示す一つの指標があります．地質学会は2008年にフィリピンで開催された第２回地学オリンピックへの初参加を後援しました．初めての試みでしたが，予想を遥かに超える350名前後の応募があり，本大会では４個のメダルを獲得しました．今年の第３回地学オリンピックには昨年の倍近い680名あまりが応募するというううれしいニュースが飛び込んで来ています．これは，地球や地学に関する関心が大きい事，また，困難な状況の中で奮闘している地学教員の存在を示しています．

一方，学習指導要領が改正されて，高校までの理科教育カリキュラムが大きく変わること，理科の授業時間が大幅に増加することが予想されています．受験偏重の風潮のなかで高校までの理科教育における地学の危機が指摘され，地学教員の減少や大学入試での地学受験者の減少が続いてきたなかで，地学教育を抜本的に強化する絶好のチャンスを迎えています．今年度は地学教育関係への取り組みをこれまで以上に強めたいと考えています．岡山での地質学会の際にも学習指導要領の改正に焦点を当てたシンポジウムが準備されつつあります．

学会としてもっとも重要なのは学術研究の推進であり，その一つの体現は学術雑誌です．その評価を高めるための方策として，地質学雑誌のSCI（Science Citation Index）登録のための準備が進められており，英文要旨の校閲も開始されました．地質学雑誌がSCI登録雑誌となれば，投稿する会員にとってもメリットは大きいでしょう．英文国際誌に関しては，地質学会は1992年以来Blackwell（現Wiley-Blackwell）社を通じてIsland Arc誌を出版していますが，編集委員会の努力もあって日本発の地質分野の国際学術誌として世界的に一定の評価を得つつあり，隔月刊を早期に実現したいものです．

学術研究活動の集約の場でもあり，懐かしい顔との年に一度の邂逅の機会でもある学術大会は，今年度は岡山で開催されます．昨年の秋田での大会は，日本鉱物科学会との同時開催の効果もあり，大成功でした．特に合同懇親会は大変な盛り上がりでした．面倒な同時開催を引き受けて下さった秋田大学，東北支部の関係者の皆様にあらためて感謝します．今年の岡山大会も，大きく盛り上げて成功させましょう．

国際交流では，昨年はタイや韓国との協力協定の締結や実際の交流活動が大きく前進しました．今年度はモンゴルやフィリピン，ベトナムなどとも協力協定の締結へ向けた動きが進んでいます．こうした国際交流活動をさらに進めて，アジアの地球科学界の中核として役割を果たしていきたいものです．

地質学会と軌を一にして，日本地球惑星科学連合も社団法人へと衣替えをし，組織形態はこれまでの団体加盟から個人加盟も併用した形へと変わりました．地質学会は連合を構成する中核的な学会の一つとして，これまで同様，協力関係を発展させて行く事になります．連合への個人会員登録もよろしくお願いします．

ところで，地質学会のホームページの大幅な改善により，災害調査情報やQ&Aなど社会への情報発信が著しく強化されました．会員サービスの強化（電子ニュースgeo-Flashの配信や巡検案内書のCD配布など）も図られてきました．学会のホームページへのアクセス数は飛躍的に増加しているとの事です．今年度も更に魅力的な情報発信の場として，ホームページの充実に努めていきます．広範な会員の皆様からの，ホームページのコンテンツ充実のためのご助力をお願いします．

最後になりましたが，地質技術者の研修制度へのより積極的な関わりや，会員カードの発行による研修ポイントの自動加算方式の導入，学会大会時などの受付などの効率化，なども検討が進められています．また，教員免許更新の講習なども，学会の事業として積極的に企画していく事も検討されています．また，出版活動も「フィールドジオロジーシリーズ」や「日本地方地質誌」の刊行が進行しています．また，学会会員による地質学に関わる様々な書籍も数多く刊行されています．

以上の活動を進める拠点として学会事務所の整備・整理や事務局の体制強化も検討が進められています．今年の早い時期に，事務所整備と事務局強化を実行する予定です．

以上のような学術活動，教育・普及活動，社会貢献活動を展開していく上で，法人格を取得したことは学会に大きな力を与えるものです．一般社団法人地質学会として活動を始める歴史的な一年目を，学会員皆様の一層のご協力・助力のもとで，輝かしい新たな出発の年となるようにがんばりましょう．今後，公益法人日本地質学会を早期に実現するために，理事会は全力を挙げて奮闘する決意です．

■2009年度役員ならびに代議員選挙の実施（告示）延期の決定について■

2009年１月９日
日本地質学会理事会

日本地質学会　会員各位

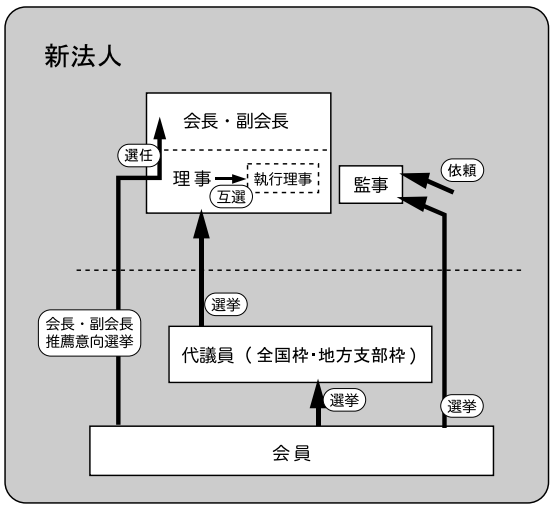
新しい年も明けまして，会員の皆様にはそれぞれのお立場のもとで，決意も新たに活動を開始されていることと存じます．日本地質学会も昨年の新法人立ち上げとともに，今年は厳しさの中にもさらなる前進の年となるよう，役員一同気を引き締めているところでございます．

さて，本誌2008年12月号に掲載の臨時総会議事録でご報告しましたように，11月30日の臨時総会において，３議案（一般社団法人日本地質学会定款案，代議員および役員選挙について，一般社団法人としての各種規則案）の提案が承認されました．

この中の第２号議案の代議員および役員選挙については，すでに本誌2008年11月号および，10月21日付けの日本地質学会メールマガジン【geo-Flash】No.045においてもお知らせしましたように，2008年度末に任期を終える任意団体日本地質学会の代議員・評議員・理事・監事の任期を，移行段階の措置として１年間延長することとし，本年度の選挙は実施しないという内容であることを，改めてお知らせいたします．

なお，今後の選挙は，学会のすべてが完全に法人へ移行した後に一般社団法人の地質学会の中で実施することといたします．また，新しい選挙においては，これまでの半数改選のルールを改め，全役員，全代議員の一斉改選を行う方針が決まっております．それまでに法人の定款に沿った選挙規則などの整備を行い，会員の皆様にも十分な共通理解を得たうえで，新法人での選挙を実施したいと考えております．なお，役員，代議員選出の構造については，概ね以下の図のように想定しております．

任期延長および継続任期の代議員・評議員の皆様には，当面は，これまでどおりの任意団体と新しい一般社団法人が並行して存在し，日本地質学会が実質的に任意団体から法人に移行する大事な時期を担っていただくことになります．これまでにも増してご協力のほどよろしくお願いいたします．また，会員の皆様にも改めてご理解とご協力をお願いいたします．



一般社団法人　日本地質学会　定款

第１章　総　　則

（名　称）
第１条　この法人は，一般社団法人日本地質学会（以下「学会」という）と称する．学会の英文名称はThe Geological Society of Japan（略称J. G. S.）という．

（事務所）
第２条　この学会は，主たる事務所を東京都千代田区に置く．
２　この学会は，理事会の議決を経て，日本国内の必要の地に支部を置くことができる．

（目　的）
第３条　この学会は，地質学とその応用についての研究成果の公表，知識の交換，内外の関連学会との連携協力等を行うことにより，地質学の進歩と普及を図り，学術の振興と社会の発展に寄与・貢献することを目的とする．
２　第１項の目的を達成するために次の事業を行う．
(1) 地質学に関する研究開発の推進，奨励ならびに援助
(2) 地質学に関する研究成果の公表，普及ならびに情報の提供
(3) 地質学に関する調査，情報収集
(4) 地質学に関する技術指導，人材育成
(5) 地質学に関する教育，普及，啓発
(6) 地質学に基づく献策
(7) 関連する諸団体ならびに産学官の諸機関との交流および協力
(8) 前号にあげるもののほか，本会の目的を達成するために必要な事業
３　前項の事業は，日本全国において行うとともに海外との学術交流を通じて行う．

（規　律）
第４条　この学会は，総会の決議により別途定める「一般社団法人日本地質学会倫理綱領」（以下「倫理綱領」という）の理念と規範に則り，公正かつ適正に会を運営し，前条の公益目的の達成と社会的信頼の維持・向上に努めるものとする．

（公　告）
第５条　この学会の公告は，電子公告による．
２　やむを得ない事由により，電子公告によることができない場合は，官報に掲載する方法による．

第２章　会　員

（種　別）
第６条　この学会の会員は次の３種とする．
(1) 正会員　　この学会の目的に賛同して入会した個人
(2) 賛助会員　この学会の目的に賛同し，この学会の事業を賛助するため入会した個人，法人および団体
(3) 名誉会員　正会員の中から，地質学の発展に関する功績

または学会への貢献が特に顕著な者で，代議員総会（以下「総会」という）の決議をもって推薦された者

2　正会員は，この学会に対し「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」（以下「法人法」という）に定められた以下の社員の権利を社員と同様に行使することができる．

(1) 法人法第14条第2項の権利（定款の閲覧等）
(2) 法人法第32条第2項の権利（社員名簿の閲覧等）
(3) 法人法第50条第6項の権利（社員の代理権証明書面等の閲覧等）
(4) 法人法第52条第5項の権利（電磁的方法による議決権行使記録の閲覧等）
(5) 法人法第57条第4項の権利（社員総会の議事録の閲覧等）
(6) 法人法第129条第3項の権利（計算書類等の閲覧等）
(7) 法人法第229条第2項の権利（清算法人の貸借対照表等の閲覧等）
(8) 法人法第246条第3項，法人法第250条第3項および法人法第256条第3項の権利（合併契約等の閲覧等）

3　正会員は，代議員選出のための選挙権および被選挙権を持つ．

（入　会）
第7条　入会は，総会の決議により別途定める「一般社団法人日本地質学会運営規則」（以下「運営規則」という）に従い，所定の入会申込書を提出し，理事会の承認を受けなければならない．

（会　費）
第8条　運営規則に従い，会員は規定の会費を納入しなければならない．
2　会費は一定の割合を公益に資するものとし，その割合は総会の決議により定める運営規則に別途定める．

（会員の責務）
第9条　会員は学会の目的に従い，倫理綱領を遵守しなければならない．

（資格の喪失）
第10条　会員は，次の各号の一に該当する場合はその資格を喪失する．

(1) 退会したとき
(2) 死亡，もしくは失踪宣告を受けたとき
(3) 成年被後見人または被保佐人になったとき
(4) 法人および団体が解散したとき
(5) 会費を滞納し，理事会の議決があったとき
(6) 総会の決議により除名されたとき
(7) 全代議員の同意があったとき
(8) この学会が解散したとき

（退　会）
第11条　会員が退会しようとするときは，退会届を提出し，任意に退会することができる．

（除　名）
第12条　会員が次の各号の一に該当するときは，総会の決議により別途定める「一般社団法人日本地質学会除名規則」に基づき，理事会および総会における各々3分2以上に当たる多数の議決によりこれを除名することができる．

(1) 会員としてこの学会の名誉を傷つけたとき
(2) 学会の目的に違反する行為があったとき
(3) 学会の倫理綱領に著しく抵触する行為があったとき
(4) その他の正当な事由があるとき

2　前項の各号に関し，事実確認に必要な手続きは別に定める．
3　第1項により除名が議決されたときは，その会員に対し，通知するものとする．

（会員資格喪失に伴う権利および義務）
第13条　会員が第10条の規定によりその資格を喪失したときは，この学会に対する権利を失い，義務を免れる．ただし，未履行の義務はこれを免れることはできない．
2　会員が第10条の規定によりその資格を喪失した場合，既納の会費はいかなる事由があっても返還しない．

第3章　代議員

（定　数）
第14条　この学会に100名以上220名以下の代議員をおく．代議員の数は総会の決議により定める「一般社団法人日本地質学会選挙規則」（以下「選挙規則」という）により別途定める．

（選　任）
第15条　代議員は，正会員による選挙により正会員の中から選出する．代議員をもって法人法における社員とする．
2　代議員は役員を兼ねることができない．
3　代議員の選挙は，選挙規則に基づいて行う．
4　代議員の欠員が生じた場合は，選挙規則に従い，速やかに欠員を補充する．
5　理事または理事会は代議員を選出することはできない．

（職務・権限）
第16条　代議員は社員として総会に出席し，総会での議決権を有するものとする．

（代議員の任期）
第17条　代議員の任期は選任後2年以内に終了する事業年度のうち，最終のものに関する定時総会の終結のときまでとする．総会の決議によってその任期を短縮すること，および再任を妨げない．
2　代議員が法人法に基づく，総会決議取り消しの訴え，解散の訴え，責任追及の訴えおよび役員解任の訴えを提起している場合には当該訴訟が解決するまでの間，当該代議員は社員としての地位を失わない．
3　欠員または増員により選任された代議員の任期は，前任者又は現任者の残任期間とする．
4　代議員は，その辞任または任期満了後でも後任者が就任するまでは，その任務を行う．

（代議員の解任）
第18条　代議員が次の各号の一に該当するときは，理事会および総会の各々の3分の2以上に当たる多数の議決により，解任することができる．

(1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき
(2) 職務上の義務に違反し，またはその職務を怠ったとき
(3) その他，代議員たるにふさわしくない行為があると認められるとき

（代議員の報酬）
第19条　代議員は無報酬とする．

第4章　総　会

（構　成）
第20条　この学会の総会は，すべての代議員をもって構成し，法人法に定める社員総会とする．

（権　限）
第21条　総会は，法人法に定める事項およびこの定款で定める事項を議決する．
（1）役員の選任および解任，代議員の解任
（2）役員等の報酬の額またはその規定
（3）定款の変更
（4）各事業年度の事業報告および計算書類等
（5）各事業年度の事業計画および予算
（6）会費等の金額
（7）会員の除名
（8）長期借入金ならびに重要な財産の処分および譲受け
（9）役員等の損害賠償責任
（10）解散および残余財産の処分
（11）合併，事業の全部もしくは一部の譲渡または公益目的事業の全部の廃止
（12）理事会において総会に付議した事項
2　前項にかかわらず定時および臨時総会においては，予め書面をもって通知した総会の目的以外の事項は，議決することができない．
3　第1項第10号に関し，総会は，剰余金の分配に関する決議をすることはできない．

（開　催）
第22条　定時総会は毎事業年度終了後，3ヵ月以内に開催する．
2　臨時総会は，次の各号の一に該当する場合に開催する．
（1）理事が必要と認め，理事会に招集の請求をしたとき
（2）議決権の10分の1以上を有する代議員から，会議の目的である事項および招集の理由を記載した書面により，招集の請求が理事にあったとき
3　前項第2号の請求をした代議員は，請求後遅滞なく招集の手続きが行われない場合，また，請求をした日から6週間以内の日を総会の日とする招集の通知が発せられない場合には，裁判所の許可を得て，総会を招集することができる．

（招　集）
第23条　総会は，法令に別段の定めがある場合を除き，理事会の決議に基づき会長が招集する．ただしすべての代議員の同意がある場合には，その招集手続きを省略することができる．
2　会長は，前条第2項第2号の規定による請求があったときは，その日から6週間以内に臨時総会を招集しなければならない．
3　総会を招集するときは，会議の日時，場所，目的および審議事項を記載した書面または電磁的方法をもって，開催日の2週間前までに役員および代議員に通知しなければならない．
4　代議員以外の正会員は理事会の決議により別途定める「一般社団法人日本地質学会理事会規則」（以下「理事会規則」という）に従い総会に陪席することができる．

（議　長）
第24条　総会の議長は，会議のつど，出席代議員の中から選出する．

（定足数）
第25条　総会は，総代議員の議決権の過半数を有する代議員が出席しなければ，議事を開き決議することができない．

（議決権）
第26条　総会における議決権は，代議員1名につき1個とする．

（決　議）
第27条　総会の決議は，法人法第49条第2項に規定する事項およびこの定款に特に規定するものを除き，出席した代議員の議決権の過半数をもって行う．

（議決権の代理・書面による行使）
第28条　やむを得ない理由のため総会に出席できない代議員は，予め通知された事項について，書面または電磁的方法により議決権を行使し，または他の代議員を代理人として議決権を行使することができる．この場合，代議員は出席したものとみなす．
2　理事または代議員が，総会の決議の目的である事項について提案した場合において，代議員の全員が書面または電磁的方法により同意の意思表示をしたときは，その提案を可決する旨の同意があったものとみなす．

（報告の省略）
第29条　理事が代議員の全員に対し，総会に報告すべき事項について予め通知した場合において，その事項を総会において報告することを要しないことにつき，代議員の全員が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには，その報告が総会においてあったものとみなす．

（議事録）
第30条　総会の議事については法令の定めに従って議事録を作成しなければならない．
2　議事録は速やかに全会員に公開し，議決事項を知らせるものとする．
3　議事録は総会の日から10年間，主たる事務所に備え置く．

（総会規則）
第31条　総会の運営に関し必要な事項は，法令またはこの定款に定めるもののほか，総会において定める総会規則による．

第5章　役員等

（種類および定数）
第32条　この学会には，次の役員を置く．
（1）理事　40名以上60名以内
（2）監事　1名以上
2　理事のうち1名を代表理事とし，代表理事をもって会長とする．また，理事のうち2名を副会長とする．理事のうち15名以内を執行理事とし，そのうちの各1名を常務理事・副常務理事とする．

（選任等）
第33条　理事および監事は，総会の決議により別途定める選挙規則に基づき，代議員の選挙により選任する．
2　理事会は，理事会規則により会長1名，副会長2名，常務理事1名，副常務理事1名および執行理事を選任し，総会はこれを決議する．
3　監事は理事または使用人を兼ねることができない．
4　理事のいずれか1名とその配偶者または3親等内の親族その他特別の関係にある者の合計数は，理事数の3分の1を超えてはならない．監事についても同様とする．
5　他の同一団体の理事または使用人である者，その他これに準ずる相互に密接な関係にあるものとして法令で定める者である理事の合計数は，理事総数の3分の1を超えてはならない．監事についても同様とする．
6　理事会は，前2項に関し，当該者間の特別な利益の授受および供与を禁止する．
7　この学会が公益社団法人及び公益財団法人認定法（以下「公益認定法」という）の規定に基づく公益認定を受けた場合において，理事または監事に異動があったときは，2週間以内

に登記し，登記簿の謄本を添え，遅滞なく行政庁に届け出なければならない．

（理事の職務・権限）
第34条　理事は理事会を構成し，法令およびこの定款の定めるところにより，理事会が決定したこの学会の業務を分担執行する．
2　会長はこの学会を代表し，業務の執行を統括する．
3　副会長は会長を補佐し，会長の業務を分担執行する．
4　常務理事，副常務理事は会長，副会長を補佐しその他の執行理事とともに，この学会の業務を分担執行する．
5　理事および執行理事の権限は理事会が別に定める職務権限規定による．
6　会長，副会長，常務理事，副常務理事および前項の業務を執行する理事は，毎事業年度ごとに3ヵ月を超える間隔で3回以上，自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない．

（監事の職務・権限）
第35条　監事は，次の各号に規定する職務を行う．
(1) 理事の職務執行の状況を監査すること
(2) 学会の業務ならびに財産の状況を監査すること
(3) 総会および理事会に出席し，意見を述べること
(4) 理事が不正の行為をし，もしくはその行為をする恐れがあると認めるとき，または法令もしくは定款に違反する事実，もしくは著しく不当な事実があると認めるときは，これを理事会，総会に報告すること
(5) 前号の報告をするため必要があるときは，会長に理事会の招集を請求すること．ただし，請求のあった日から5日以内に，2週間以内の日を理事会とする招集通知が発せられないときは，直接理事会を招集すること
(6) 理事が総会に提案しようとする議案，書類その他法令で定めるものを調査し，法令もしくは定款に違反し，または著しく不当な事項があると認めるときは，その調査の結果を総会に報告すること
(7) 理事が学会の目的範囲外の行為とその他法令もしくは定款に違反する行為をするおそれがあるときは，その理事に対し，その行為をやめることを請求すること
(8) その他監事に認められた法令上の権限を行使すること

（任　期）
第36条　理事の任期は選任後2年以内に終了する事業年度のうち，最終のものに関する定時総会の終結のときまでとし，総会の決議によってその任期を短縮すること，および再任を妨げない．
2　監事の任期は選任後4年以内に終了する事業年度のうち，最終のものに関する定時総会の終結のときまでとし，再任を妨げない．
3　補欠または増員により選任された理事の任期は，前任者または在任者の残任期間とする．
4　補欠として選任された監事の任期は，前任者の残任期間とする．
5　役員は，その辞任または任期満了後でも後任者が就任するまでは，その職務を行う．

（解　任）
第37条　役員が次の各号の一に該当するときは，総会において解任することができる．ただし，監事を解任する場合は3分の2以上に当たる多数の議決に基づいて行わなければならない．なお，議決する前に理事会および総会でその役員に弁明の機会を与えなければならない．
(1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき
(2) 職務上の義務に違反し，またはその職務を怠ったとき
(3) その他，役員たるにふさわしくない行為があると認められるとき

（報酬等）
第38条　役員は，有給とすることができる．
2　役員には，職務執行に要する費用の支払いをすることができる．
3　役員の報酬は，総会の決議により定め，支給方法等については別途定める「一般社団法人日本地質学会役員報酬規則」による．

（取引の制限）
第39条　理事が次にあげる取引をしようとする場合は，その取引について重要な事実を開示し，理事会の承認を得なければならない．
(1) 自己または第三者のためにするこの学会の事業の部類に属する取引
(2) 自己または第三者のためにするこの学会との取引
(3) この学会がその理事の債務を保証すること，その他理事以外のものとの間におけるこの学会とその理事との利益が相反する取引
2　前項の取引をした理事は，その取引の重要な事実を遅滞なく，理事会に報告しなければならない．
3　前2項の取り扱いについては，第51条に定める理事会規則によるものとする．

（責任の免除または限定）
第40条　この学会は，法人法第111条第1項の役員の賠償責任については，法人法第112条の規定にかかわらず，総正会員の同意がなければ免除することができない．ただし，法令に定める要件に該当する場合には，理事会および総会で各々の3分の2以上に当たる多数の議決によって，賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として，免除することができる．
2　この学会は，外部役員との間で，前項の賠償責任について法令に定める要件に該当する場合には，賠償責任を限定する契約を締結することができる．ただし，その契約に基づく賠償責任の限度額は，金50万円以上で予め定めた額と法令の定める最低責任限度額とのいずれか高い額とする．

第6章　理事会

（構成）
第41条　この学会に理事会をおき，理事会はすべての理事をもって構成する．

（権限）
第42条　理事会は，この定款に別に定めるもののほか，次の職務を行う．
(1) 総会の日時および場所ならびに目的事項の決定
(2) 規則の制定，変更および廃止に関する事項
(3) 前各号に定めるもののほかこの学会の業務執行の決定
(4) 理事および執行理事の職務の執行の監督
(5) 会長，副会長，常務理事，副常務理事および執行理事の選定および解職

2　理事会は，内部管理体制の整備および以下にあげる事項，その他の重要な業務執行の決定を，理事に委任することができない．また，以下の事項については，理事会の議決を経て総会

の議に付すものとする．
(1) 重要な財産の処分および譲り受け
(2) 多額の借財
(3) 重要な使用人の選任および解任
(4) 従たる事務所その他重要な組織の設置，変更および廃止
(5) 理事の職務の執行が，法令および定款に適合することを確認するための体制，その他この学会の業務の適正を確保するために必要な，法令で定める体制の整備
(6) 第40条第1項の責任の免除および同条第2項の責任限定契約の締結
3　業務の執行は，執行理事会がこれを行う．執行理事会については別に定める理事会規則によるものとする．

(開　催)
第43条　定例理事会は毎事業年度に3回以上開催する．また，次の各号の一に該当する場合は臨時理事会を開催する．
(1) 会長が必要と認めたとき
(2) 会長以外の理事から，会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき
(3) 前号の請求があった日から5日以内に，その日から2週間以内の日を理事会の日とする理事会の招集通知が発せられない場合に，その請求をした理事が招集したとき
(4) 第35条第5号の規定により，監事から招集の請求があったとき，または監事が招集したとき

(招　集)
第44条　理事会は会長が招集する．ただし，前条第3号により理事が招集する場合および第4号後段の監事が招集する場合を除く．
2　会長は，前条第2号，4号前段または法人法第101条第2項に該当する場合は，その請求があった日から2週間以内に臨時理事会を招集しなければならない．
3　理事会を招集するときは，会議の日時，場所，目的である事項を記載した書面または電磁的方法により，開催日の5日前までに各理事および各監事に対して通知しなければならない．
4　前項の規定にかかわらず，理事および監事の全員の同意があるときは，招集の手続きを経ることなく理事会を開催することができる．
5　事前に傍聴を希望した会員は，理事会に陪席することができる．また，理事が必要とし会長が認める者を招聘することができる．

(議長)
第45条　理事会の議長は，執行理事以外の理事の互選により選出された理事がこれに当たる．

(定足数)
第46条　理事会は，理事の過半数の出席がなければ，会議を開くことができない．

(議決)
第47条　理事会の議事はこの定款に定めがあるもののほか，議決に加わることができる理事の過半数が出席し，その過半数をもって決する．

(決議の省略)
第48条　理事が，理事会の決議の目的である事項について提案した場合において，その提案について議決に加わることができる理事の全員が，書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときは，その提案を可決する旨の理事会の議決があったものとみなす．ただし，監事が異議を述べたときは，その限りではない．

(報告の省略)
第49条　理事または監事が理事または監事の全員に対し，理事会に報告すべき事項を通知した場合においては，その事項を理事会に報告することを要しない．ただし，法人法第91条第2項の規定による報告についてはこの限りではない．

(議事録)
第50条　理事会の議事については，法令で定めるところにより議事録を作成し，出席した理事および監事は，これに署名しなければならない．

(理事会規則)
第51条　理事会に関する事項は，法令またはこの定款に定めるもののほか，理事会規則による．

第7章　財産および会計

(事業年度)
第52条　この学会の事業年度は，毎年4月1日に始まり，翌年3月31日に終わる．

(基本財産の維持および処分)
第53条　第3条第2項の事業を行うために学会は基本財産を設け，その適正な維持および管理に務めるものとする．
2　やむを得ない理由により，基本財産の全部もしくは一部を処分または担保に提供する場合は，理事会において議決に加わることのできる理事の3分の2以上に当たる多数の議決を経て，総会の議事に付す．
3　基本財産の維持および処分について必要な事項は，理事会の決議により別に定める「一般社団法人日本地質学会財産管理運用規則」(以下「財産管理運用規則」という) によるものとする．

(財産の管理・運用)
第54条　この学会の財産の管理・運用は会長が行うものとし，その方法は理事会の決議により別に定める財産管理運用規則によるものとする．

(事業計画および予算)
第55条　この学会の事業計画および予算，資金調達および設備投資の見込みを記載した書類については，毎事業年度の開始の日の前日までに会長が作成し，理事会の決議を経て直近の総会の承認を受けなければならない．これを変更する場合も同様とする．
2　前項の規定にかかわらず，やむを得ない事情により予算が成立しないときは，理事会の決議に基づき，予算成立の日まで前年度の予算に準じて実施することができる．
3　前項により実施されたものは，新たに成立した予算とみなす．
4　第1項の書類については，当該事業年度終了まで主たる事務所および従たる事務所に備え置き，一般の閲覧に供する．なお，この学会が公益認定法の規定に基づく公益認定を受けた場合においては，遅滞なく行政庁に届け出なければならない．

(事業報告および計算)
第56条　この学会の事業報告および決算については，毎事業年度終了後，会長が次の書類を作成し，監事の監査を受け，理事会の承認を得たうえで，定時総会に報告しなければならない．ただし，第3号から第6号までの書類について，法人法施行規則第48条に定める要件に該当しない場合には，定時総会への報

告に代えて総会の承認を受けなければならない．
（1）事業報告
（2）事業報告の附属明細書
（3）貸借対照表
（4）損益計算書（正味財産増減計算書）
（5）貸借対照表および損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
（6）財産目録
2　前項の計算書類のほかに，次の書類を主たる事務所に5年間，また，従たる事務所に3年間備え置き，一般の閲覧に供する．また，定款を主たる事務所および従たる事務所に，代議員名簿を主たる事務所に備え置き，一般の閲覧に供するものとする．
（1）監査報告書．
（2）理事および監事の名簿
（3）理事および監事の報酬等の支給の基準を記載した書類（役員報酬規則）
（4）運営組織ならびに事業活動の状況の概要およびこれらに関する数値のうち，重要なものを記載した書類
（5）その他法令で定める帳簿および書類
3　前項各号の帳簿および書類等の閲覧については，法令の定めによるほか，第69条第2項の定めによるものとする．
4　第1項の定時総会終了後直ちに，法令の定めるところにより，貸借対照表を公告するものとする．

（公益目的取得財産額の算定）
第57条　会長は，公益認定法に関する施行規則第48条の規定に基づき，毎事業年度の末日における当該事業年度の公益目的取得財産残額を算定し，前条第2項第4号の書類に記載するものとする．

（長期借入金および重要な財産の処分または譲受け）
第58条　資金借り入れをしようとするときは，その会計年度の収入をもって償還する短期借入金を除き，総会において代議員の半数以上であって，総代議員の議決権の3分の2以上の議決を経なければならない．
2　重要な財産の処分または譲受けを行おうとするときも，前項と同じ議決を経なければならない．

（会計原則）
第59条　この学会の会計は，一般に公正妥当と認められる公益法人の会計の慣行に従うものとする．

第8章　定款の変更，合併および解散等

（定款の変更）
第60条　この定款は第63条の規定を除き，総会において，総代議員の半数以上であって，総代議員の議決権の3分の2以上の議決により変更することができる．
2　この学会が公益認定法の規定に基づく公益認定を受けた場合においては，前項の変更を行ったときは，遅滞なく行政庁に届けなければならない．

（合併等）
第61条　総会において，総代議員の半数以上であって，総代議員の議決権の3分の2以上による多数の議決により，他の法人法上の法人との合併，事業の全部または一部の譲渡および公益目的事業の全部を廃止することができる．
2　なお，この学会が公益認定法の規定に基づく公益認定を受けた場合においては，前項の行為をしようとするときは，予めその旨を行政庁に届け出なければならない．

（解　散）
第62条　この学会は法人法第148条第1号および第2号ならびに第4号から第7号までに規定する事由によるほか，総会において，総代議員の半数以上であって，総代議員の議決権の3分の2以上に当たる多数の議決により解散することができる．

（公益認定等の取り消し等に伴う贈与）
第63条　この学会が公益認定の取り消しの処分を受けた場合，または，合併により消滅する場合には，（その権利義務を継承する団体が公益法人の場合を除いて）総会の決議を経て，公益目的取得財産残額に相当する額の財産を，1ヵ月以内にこの学会と類似の事業を目的とする公益法人または国，もしくは地方公共団体に贈与するものとする．

（残余財産の帰属）
第64条　この学会が解散等により清算するときに有する残余財産は，総会の議決により，この学会と類似の事業を目的とする他の公益法人または国，もしくは地方公共団体に寄付するものとし，分配は行わない．

第9章　専門部会・研究委員会・委員会

（専門部会）
第65条　理事会はこの学会の事業を推進するために理事会規則により，専門部会を設置することができる．

（研究委員会）
第66条　理事会は，会員の要請により地質学およびこれに関連する諸科学の特定課題を研究するために，理事会規則により研究委員会を設置することができる．

（委員会）
第67条　理事会は，この学会の事業を推進するために必要あるときは，理事会規則により委員会を設置することができる．

第10章　事務局

（設置）
第68条　この学会の事務を処理するため，事務局および所要な事務局職員を置く．
2　事務局職員は，理事会の承認を得て会長が任免する．
3　事務局の組織および運営に関し必要な事項は，理事会の議決により別に定める．

第11章　情報公開および個人情報の保護

（情報公開）
第69条　この学会は，公正で開かれた活動を推進するため，その活動状況，運営内容，財務資料等を積極的に公開するものとする．
2　情報公開に関する必要な事項は，理事会の議決により別に定める．

（個人情報の保護）
第70条　この学会は業務上知り得た個人情報の保護に万全を期すものとする．
2　個人情報の保護に関する必要な事項は，理事会の議決により別に定める．

第12章　附　則

（委　任）
第71条　この学会の運営に必要な事項は，この定款に定めるほか，理事会の議決により別に定める．

（最初の事業年度）
第72条　この学会の設立初年度の事業計画および予算は第55条に関わらず，設立総会の定めるところによる．
2　この学会の設立初年度の事業年度は，この学会の成立の日から2009年３月31日までとする．

（設立時社員の氏名等）
第73条　この学会の設立時社員の氏名，住所は次のとおりである．
－氏名，住所は略－

（設立時役員の氏名等）
第74条　この学会の設立時理事・監事および代表理事は次のとおりである．
－氏名，住所は略－

（法令の準拠）
第75条　本定款に定めのない事項は，すべて法人法，その他の法令に従う．

2008年12月１日

地球惑星科学連合の個人会員登録について

日本地質学会理事会

2009年１月９日より地球惑星科学連合の個人会員登録が始まりました（連合URL：http://www.jpgu.org/参照）．

昨年12月１日に一般社団法人となりました地球惑星科学連合は,本学会と同じく公益法人をめざしているところですが，学術会議との連携や政策決定者への適切な提言・パブリックコメントの対応など，地球惑星科学分野からの統一的な発信を有効に推進するため，引き続き日本地質学会は同連合の主要な構成団体として積極的に関わっていく方針でおります．

そのためには，本学会より会員各位が連合の個人会員として登録いただき，会員の皆様の活動の場と可能性を広げつつ，積極的な連合でのご活動をいただく事が必須と考えております．地質学会員の登録区分は下記の「４．固体地球科学」をはじめ，「２．大気海洋・環境科学」,「３．地球人間圏科学」,「５．地球生命科学」，など幅広い分野にわたると思いますので，各々のセクションにおいて地質学会員の皆様に重要な役割を担っていただくためにも，できる限り多くの方に連合の個人会員登録をお願いする次第です．

【登録区分】
（学術研究活動推進の場としてのセクション区分は，下の１～５に限られます．）
１．宇宙惑星科学：太陽系の諸天体（太陽，惑星，小天体）の起源と進化の解明，現在の状態（内部構造，表層環境，大気・プラズマ環境）とダイナミクスの理解，さらには宇宙空間及び系外惑星の探求を目指す研究分野．

２．大気海洋・環境科学：現在及び過去の大気・海洋・表層環境とその変動（気象現象から古気候変動まで）のメカニズムを解明し，将来の地球環境の変動の予測に向けて，大気，海洋，陸水，雪氷，土壌，植生とそれらの相互作用の理解を目指す研究分野．

３．地球人間圏科学：地球表層空間における自然と人間の相互作用とそれに起因する諸問題（自然災害，農村・都市環境，土地・資源・エネルギー利用など）を，調査・観測，データ分析，モデルにより多面的に研究する分野．

４．固体地球科学：固体地球（地殻，マントル，中心核）の構造と物性，進化と変動の歴史，現在のダイナミクスを，地球物理学的，地質学的，物質科学的，地球化学的な手法を用いて，総合的かつ統一的に解明する研究分野．

５．地球生命科学：生命に関して，その起源と進化，絶滅の原因とプロセス，形態や生態の多様性を，地球環境の進化・変動との関わりという視点に立って，地球惑星科学及び生物学の両側面から理解を目指す研究分野．

６．地球惑星科学総合：他の５つの区分にはなじまない，広く地球惑星科学全般に関心のある教育関係者，ジャーナリスト，官公庁・民間企業の関係者，一般市民の方々等を対象としたものであり，「総合的あるいは分野横断的な学術分野としての区分」という意味ではありませんのでご注意ください．

【参考】
なお，連合の組織上の大きな変更点の概要をご参考までに以下にご説明します．
１．個人会員制および連合を構成する学協会の団体会員制を新たに設ける．
２．将来を見据えた学術研究活動の推進のために，これまでの学協会の分野の枠組みを超えた５つの分野からなるセクション制を導入する．

連合の個人会員（年会費一般2000円，院生1000円）になれば，連合および希望セクションからの様々な情報サービスや会員特典が受けられることになります．また，連合大会の登録料が個人会員では2000円安く設定されるため，連合大会参加者は実質上従来と出費は変わりません．一方，非会員のまま連合大会に参加する場合は，参加登録費が会員より5,000円高くなります．連合総会の代議員を選ぶ権利を有する登録区分は，６つの登録区分のうちの１つを選択することとなりますが，情報配信，活動を実施するセクションへは複数登録が可能です．詳しくは，JGL１月号，連合メールニュースならびに連合URLをご覧ください．

岡山大会ニュースNo.2

日本地質学会第116年学術大会：2009年９月４日（金)～６日（日）西日本支部岡山理科大学にて開催

日本地質学会は，西日本支部の支援のもと，岡山理科大学（岡山市）において第116年学術大会（2009年岡山大会）を2009年９月４日（金)～６日（日）の日程で開催致します．

地質学会の学術大会は，研究の発表と議論の場でありますが，地方で行うことによって各地域の多様な地質について理解を深める絶好の機会でもあります．西日本には日本列島の基盤が広く露出しており日本列島構造発達史の研究には重要な場を提供しています．岡山大会では，それに関連したシンポジウムやそれに対応した見学旅行を企画しています．これまでに公募などで提案のあったシンポジウム及び見学旅行や地学教育関連企画及び市民講演会について紹介します．

■シンポジウム（順不同）

「坂野昇平追悼シンポジウム」
世話人：平島崇男・榎並正樹
「都城秋穂追悼シンポジウム」
世話人：丸山茂徳・磯崎行雄（見学旅行企画）
「高Mg安山岩とアダカイト：その起源，テクトニクス，大陸地殻形成における役割」
世話人：巽　好幸・田村芳彦ほか（見学旅行を企画）
「日本列島構造発達史」
世話人：磯崎行雄・丸山茂徳（見学旅行を企画）
「３次元地質モデルの構築手法と利活用」
世話人：升本眞二・木村克己・根本達也・古宇田亮一
「中国地方における第三系の諸問題－新たな地平をめざして－」
世話人：沢田順弘・酒井哲弥・入月俊明
「科学を文化に－学校教育・地学分野のこれから－」
世話人：藤林紀枝・芝川明義・三次徳二・矢島道子・七山　太
「「ちきゅう」による南海トラフ地震発生帯掘削計画ステージ１と２の成果（総括)」
世話人：木下正高・芦　寿一郎・木村　学・斉藤実篤・山口飛鳥・氏家恒太郎・坂口有人（見学旅行を企画）

■シンポジウム対応見学旅行

「香川県小豆島第三紀火山岩類」
案内者：巽好幸・田村芳彦・木村純一・土屋信高
（対応シンポジウム「高Mg安山岩とアダカイト」）
「四国三波川変成帯の地帯構造」
案内者：丸山茂徳・磯崎行雄・岡本和明・青木一勝
（対応シンポジウム「都城秋穂追悼シンポジウム」と「日本列島構造発達史」）
「四万十帯牟岐メランジュにおける地震発生震度で形成された断層岩」
案内者：山口飛鳥・柴田伊廣・氏家恒太郎・木村　学
（対応シンポジウム「「ちきゅう」による南海トラフ地震発生帯掘削計画ステージ１と２の成果（総括)」）

■その他の見学旅行

「大山と大根島：山陰中央部における対照的な第四紀火山」
案内者：沢田順弘
「香川県小豆島の花崗岩のラミネーションシーティングをたずねて」
案内者：藤田勝代・横山俊治
「秋吉石灰岩から読み取る石炭・ペルム紀の古環境変動－美祢市（旧秋芳町）秋吉台科学博物館創立50周年記念巡検－」
案内者：佐野弘好・杣山哲男・長井孝一・上野勝美・中澤努・藤川将之
「岡山県東部周辺の舞鶴帯と超丹波帯」
案内者：竹村静夫・菅森義晃・鈴木茂之
「中国地方の応用地質－成羽層群地すべりなど－」
案内者：横田修一郎・田中　元
「岡山市周辺の吉備高原に分布する古第三系“山砂利層”と中新統」
案内者：鈴木茂之・松原尚志

これらの見学旅行企画のタイトルや案内書等は今後変更されることがあります．岡山大会では見学旅行企画とシンポジウムやセッションの企画との関連性を深めることを考えています．今後シンポジウムやトピックセッションの企画が進行するなかで，関連性を追求していく予定です．

なお見学旅行案内書原稿の最終締め切りは４月末日です．見学旅行企画を考えて下さっていて，この締め切りに間に合う企画がありましたら，２月中旬までに鈴木＜zysuzuk@cc.okayama-u.ac.jp＞にご連絡下さい．〔なお，見学旅行案内書の内容は校閲されます〕

■地学教育関連行事

地学教育委員会では例年の地学教育関係の大きな行事である「小さな Earth　Scientistのつどい～第７回小，中，高校生「地学研究」発表会」と「第８回理科教員対象見学旅行」の準備を進めています．アウトリーチ見学旅行「万成花崗岩と地学公園“ジオトレイル”」（案内者：能美洋介・鈴木寿志・竹下浩征・郷津知太郎・溝口昭子・市川健吾）も計画しています．

■一般普及講演会

ここ数年来，地質学会では，社会に対する地質学の貢献や重要性をアピールすることも活動の主要な柱としてきました．この方針のもと岡山大会においても，地域地質と地域産業に関する市民向けの講演会を企画しています．
「大地から考える地球環境　―地質と生物・農業の深い関係―」
講演者：波田善夫（岡山理科大学学長）・武田　弘（東京大学名誉教授）

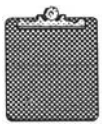
■岡山大会キャッチフレーズ決定

第113年高知大会以来，市民向けポスターを制作しています．それに載せるキャッチフレーズを岡山地区会員から募集しました．応募のあった複数のキャッチフレーズから「**桃太郎と学ぶ地質学**」が選ばれました．

同窓会の開催を希望される各大学地質系教室等の代表者の方は，**３月31日まで**に鈴木茂之（zysuzuk@cc.okayama-u.ac.jp）に御連絡下さい．

大会予告は例年より一ヶ月早く，ニュース誌４月号を予定しております．

2009年岡山大会実行委員会
委員長　板谷　徹丸
事務局長　鈴木　茂之



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

日本堆積学会2009年京都枚方大会のご案内と講演募集

今大会では，「堆積学から環境へのアプローチ」をテーマに工学・環境学・考古学と堆積学とを結ぶ学際的な内容のショートコース・基調講演・巡検が組まれています．皆さまお誘い合わせのうえ，多数ご参加ください．

日程：**2009年3月27日（金）〜30日（月）**
27日（金）：ショートコース（1）「漂砂流砂系における堆積物動態と地形変化のとらえ方」，(2)「石油探鉱データを使用した地下地質堆積環境イメージング」
28日（土）：個人講演（基調講演含む），総会議事，懇親会
29日（日）：個人講演（基調講演含む），最優秀口頭・ポスター発表の表彰，堆積学トーク・トーク
30日（月）：巡検

会場：大阪工業大学情報科学部枚方キャンパス

大会参加費（講演要旨集込み）：一般会員 3,000円，学生・院生会員 2,000円
非会員一般 4,000円，
非会員学生・院生 2,500円

◯ショートコース
(1) 漂砂流砂系における堆積物動態と地形変化のとらえ方
日時・場所：3月27日（金）13：00〜，京都大学防災研究所
講師：関口秀雄ほか
(2) 石油探鉱データを使用した地下地質堆積環境イメージング
日時・場所：3月27日（金）13：00〜，京都大学防災研究所
講師：中西健史（国際石油開発帝石）

◯巡検
「京都南部の天井川と干拓地：人間が変えた地表環境」
3月30日（月）
案内者：増田富士雄ほか

◯懇親会
3月28日（土）18：00〜20：00

◯堆積学トーク・トーク
3月29日（日）17：00〜19：00
大阪工業大学情報科学部

締切一覧：
講演申込締切：**2月13日（金）**
講演要旨締切：**2月20日（金）17：00**
巡検申込締切：**2月13日（金）**
ショートコース申込締切：**3月6日（金）**
団体展示出展申込締切：**3月6日（金）**
懇親会事前申込締切：**3月6日（金）**

＊詳しくは，日本堆積学会ホームページ（URL: http://sediment.jp/）をご覧下さい．

日本地球惑星科学連合2009年大会

会期：2009年5月16日（土）〜21日（木）
会場：幕張メッセ国際会議場

◯予稿集原稿投稿受付
早期締切：2009年1月30日（金）17：00
最終締切：2009年2月6日（金）12：00

◯事前参加登録受付
締切：4月10日（金）12：00

登録料は，連合の個人会員・非会員により異なります．詳しくは，http://www.jpgu.org/meeting/index.htm

公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教員公募

1．公募人員　教授もしくは准教授1名
2．公募分野　生命地球科学およびその関連分野
3．応募資格　学位（博士）を有し，大学院前期・後期課程での生命地球科学分野の研究教育ができる方．着任後は，理学部地球惑星環境学科の講義，実習を兼担して頂くことになります．
4．着任時期　2009年10月1日
5．応募方法　自薦または他薦
6．提出書類
(a) 履歴書（学歴および職歴）
(b) これまでの研究教育業績の概要（1600字程度に要約）
(c) 研究業績目録（査読論文とそれ以外の総説，著書などに分類）
(d) 主要な原著論文別刷（コピー可）5編以内
(e) 今後の研究計画および抱負（1600字程度に要約）
(f) 今後の教育（学部および大学院）の抱負（800字程度に要約）
(g) 自薦の場合は，応募者に関して所見を伺える方2名の氏名および連絡先（住所，電話番号，電子メール）．他薦の場合は，推薦書
(h) 他薦の場合は，推薦書の他に，上記事項（a）−（f）の概要がわかる書類
7．応募・推薦の締め切り
2009年2月28日（土）（消印有効）
8．書類提出先：
〒113-0033　東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻　事務室　気付
9．問い合わせ先
〒113-0033　東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻　多田隆治
電話：03-5841-4523
電子メール：ryuji@eps.s.u-tokyo.ac.jp
詳しくは，http://www.eps.s.u-tokyo.ac.jp/

公募結果

東北大学　東北アジア研究センター助教公募
2008年12月1日づけで平野直人氏（前金沢大学フロンティアサイエンス機構博士研究員）を採用．

訃　報

本会の次の方々が逝去されました．謹んで哀悼の意を表します．

正会員　金子史郎（2008年3月4日）　堀江正治（2008年秋）　吉村尚久（2008年12月5日）
林　行敏（2008年6月16日）　遠藤勝壽（2008年11月30日）　鎌田泰彦（2009年1月10日）

紹　介

地球・環境・資源
地球と人類の共生をめざして

内田悦生・高木秀雄　編

〈2008年９月15日発行，共立出版，
189ページ，定価2900円＋税，
ISBN 978-4-320-04703-7〉

本書は，早稲田大学大学院創造理工学研究科　地球・環境資源理工学専攻の教員が執筆した，地球科学一般に関する大学教養課程向けの教科書である．タイトルはこの執筆陣の専攻名から来ている．

目次：

１．地球の探求
２．地球の構成物質
３．地球の変動
４．地球の誕生と進化
５．地球の生命の誕生と進化
６．鉱物・エネルギー資源
７．地球表層の物質循環と地球環境問題
８．自然と人間活動の調和をめざして

本書は地球科学に関する基礎的な知識をほぼ網羅しており，イラストや写真も豊富でわかりやすい教科書である．IODPによる南海トラフ掘削やIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第４次報告など，最近の話題もフォローされている．

類書と比較すると，本書の最大の特徴は，資源地質や環境地質についてやや専門的な話題まで踏み込んでいる後半の６～８章にあると私は考える．昨今の資源価格高騰や資源外交問題，地球温暖化，環境汚染といった重大な問題の解決には文理の枠を超えた叡智の結集が求められており，こうした章の充実は教養課程向けの教科書として時宜にかなったものであろう．

以下，簡単に各章について順に解説する．第１章「地球の探求」では，地球の大きさや層構造，年代，古地磁気，地殻熱流量といった基本的な性質と，それらがどのように明らかにされてきたのかという基本原理が解説される．これらは46億年の地球史を踏まえて地球システムを理解するための根幹となる部分であり，後に続く章全体の導入となっている．第２章の「地球の構成物質」では，鉱物学と岩石学について述べられている．火成岩・変成岩の分類や起源の解説は図も多くて詳細であり，堆積岩についての解説では堆積作用についても述べられている．第３章の「地球の変動」では，プレートテクトニクスおよび日本列島の構造発達史について解説される．第４章の「地球の誕生と進化」では，地球の誕生から原生代後期の全球凍結までの歴史が解説される．第５章の「地球の生命の誕生と進化」では太古代からの地球生命史の全体が語られるが，この章の執筆を担当された平野弘道さんが「絶滅古生物学」の第一人者という事もあり，生物進化に大きな影響を与えた大量絶滅についての詳細な記述は面白く読んだ．第６章の「鉱物・エネルギー資源」では各種金属・非金属鉱床について語られるが，冒頭では資源の消費動向や供給不安，環境破壊といった資源に関わる社会問題について触れられており，資源地質学への導入として適切であろう．第７章の「地球表層の物質循環と地球環境問題」では，大気海洋循環のメカニズムやそれに伴う炭素や窒素等の物質循環，および地球環境問題について解説される．地球温暖化問題についてはこの章で触れられる．終章となる第８章の「自然と人間活動の調和をめざして」では，地球と人間活動との接点に現れる公害と災害について解説されている．

以上述べてきたように，本書では基礎的な地球科学から始まり，より応用的な資源地質学や環境地質学までが体系的・有機的に展開されている．ちなみに私が所属する学科は島根大学総合理工学部の「地球資源環境学科」であり，筆者らの専攻名とは語の順序が一部異なるのみであるが，本書で扱われている範囲は私たちの学科のカリキュラムから防災工学を除いたものとかなり良く対応している．したがって，本書は当学科における基本事項の確認・復習に最適の教科書であると思われたので，私たちは本書を学部3回生のセミナーで輪読させる事にした．書評としては異例かも知れないが，最後にその実践例を簡単に紹介させて頂く．

本書の輪読は私が所属する環境地質学講座のセミナーで，全５週にわたって実施した．セミナーに参加した３回生は25名で，それぞれが本書の６～８ページずつを担当し，パワーポイントを用いて内容を解説した．１人あたりの発表時間は15分間とした．各人に割り当てられたページ範囲は必ず当学科のいずれかの講義内容を含んでいる事から，最後のスライドとして関連する講義名を列挙してもらう事とした．学生によっては，ただ講義名を挙げるのみではなく，実際に講義で使用された図を用いて解説してくれた人もいて，聴いている学生にとっても良い復習になったようである．

総括に代えて，学生からの感想の一部を以下に挙げさせて頂く．

・地球に（私たち人間の活動が）これほどまで多く関わっているのかと非常に驚いた．自分達がそういう分野をやっていることは何か責任重大な気がします．

・地球に関する幅広い内容であったので，今まで学習してきた内容を復習できたのが良かったです．

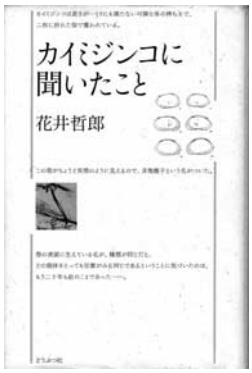
・全ての分野がわかりやすくのっていたと思うので，他の人が発表していた分野も読んでみたいと思う．

・この教科書全てをもう一度勉強し直したいと思う．一人一人の発表を聞いてすごくタメになったし，参考になった．

（林　広樹）

カイミジンコに聞いたこと

花井哲郎　著



〈どうぶつ社　2006年12月20日発行，
Ｂ６版，268ページ，定価1,500円（税別）
ISBN 4-88622-066-5〉

一昨年（2007年９月）の日本地質学会札幌大会の後，夕張－三笠巡検（M班）の案内を無事に終え，指導学生との野外調査も済ませて，千歳発羽田行きの機中で充実感に浸っていたところ，思いがけない遭遇に感動した．それは，機内誌の１ページに，大学院の恩師である花井哲郎先生の随筆『カイミジンコに聞いたこと』の一編「選択と淘汰」が，先生のスナップ写真とともに掲載されていたのである．OGUエッセイと名付けられた，大阪学院大学の広告シリーズの第三回とあった．機内誌を持ち帰ったのは言うまでもない．

その年（2007年）の正月，門下有志で企画した花井先生を囲む会は，その著作の出版を

祝う意義も込めて行われた．その折りに，先生から戴いた謹呈本を前にして，紹介記事を執筆する約束をした．しかし，機中で遭遇した時は，その約束が半年以上も繰り延べになっていることに冷や汗をかく思いがした．それならば，出版からちょうど一年目のところで記事が出るように手がけていた頃，先生の訃報（2007年10月26日）に接することになってしまった．前日まで普段と変わりなく散歩される元気な中での突然の心不全，と葬儀の席で聞いた．花井先生のプロフィールは，池谷仙之氏が日本古生物学会の和文誌「化石」に書かれた追悼記事（化石，83号，78-80，2008）や，読売新聞の追悼抄（2007年12月４日，夕刊）に詳しい．

一周忌を過ぎた2008年の12月６日，東京一橋の学士会館に20人程の弟子が集い，花井先生を偲ぶ会が行われた．小文では，そこで回想した先生の思い出を心に刻みながら，先生の遺徳を紹介すべく，この著作を紹介したい．

本書は，花井先生が東京大学理学部地質学教室を定年退職するまでの思い出と，その後に大阪学院大学で教鞭を執られていた2000年までの経験を織り交ぜながら，折々に書き留められた50編の随筆集である．第１編の「ウミゴボウ」を除けば，第２編の「匂いと臭い」から第50編の「母の部屋」までは大阪学院大学の学内誌に掲載されたものが年代順に並んでいる．そして，「ウミゴボウ」ほかの５編を除く45編は，先生が好まれた落語の三題噺にならって，１つの主題のもとに３つの「題」から書き起こされた随筆であるため，計15の三題噺が収められていることになる．したがって，巻末にある初出一覧を参照して，三題噺ごとに読み進めていくと，先生の思索や随想が読み取りやすい．

冒頭に取り上げた第10編の「選択と淘汰」は，第９編「前適応」と第11編「車中点描」とを合わせて，「通勤車中三題」として大阪学院大学通信に掲載されたものである．通勤電車の中でのありふれた何気ない光景から思いを馳せて，前適応，選択，淘汰，利他的行為（「車中点描」の原題は大阪学院大学通信では「利他行為」）という古生物学や進化学の用語や思考で締めくくっている．言うなれば，ありふれた日常の社会を科学の眼で見通しながら「落とし噺」にする，自然史科学者の科学落語である．あまり例のない科学随筆集とも言えよう．

まえがきで書かれた，二つの願望の一つ目「子供のときには遊びの中で，大学では同僚や学生とともに，自然や専門のカイミジンコを観察したときの，その眼で世間を見たいという願望」のままに，子供の頃の思い出から東大での授業風景，現生・化石貝形虫（カイミジンコ）の採集調査や米国留学での研究の様子，カイミジンコの国際学会でのエピソード，東大退官後に再開された昆虫採集にまつわる蘊蓄，休暇に家族で過ごされた軽井沢での一幕など，心象風景は多岐にわたっている．一編一編は「自然史科学の眼であり，学んで納得したものしか信用しないという素朴な経験主義の眼」から，先生の博学，雑学が縦横無尽に繰り広げられている．そして，各所に素朴な疑問や批判精神，そして学問に対する真摯な姿勢が披瀝されている．また，生物学や古生物学の学術用語ばかりでなく，地質学や科学哲学の用語も数多く論じられている．例えば，プレートテクトニクスは「パラダイムと教育」の中で取り上げて，大学での自然科学教育において教えるべきものは，「『既成の概念の鋳型』の詳細ではなくその概念を貫く精神」と述べられている．一編一編を読み終える度に，笑いと愉快がわき上がってくる．

いくつかの話題は，大学院の講義や講座の会食・談話会，あるいは雑談などで聞いた記憶がある．その中で非常に印象に残っているのは，第17編の「テレスコ」である．花井先生が東大退官の際の最終講義で触れられたこの話題は上方落語の一話である．これを題材として2007年に松竹から『やじきた道中てれすこ』が映画化されたので，一般にもよく知られている．長崎の漁村で見つかった世にも珍しい魚を，ある村人が「テレスコ」と教えたにもかかわらず，干物になった同じ魚を「ステレンキョウ」と呼んだことで，代官が立腹して打ち首刑となるが，処刑前に放った申し開き「イカの干したのをスルメと言うな」で無罪放免となったという，鎌倉時代の高僧の説話に由来する．花井先生はこの噺を生物の種概念や学名，そして動物命名法に絡めた話題として展開されている．その落ちは「アタリメの話だ」となる．最終講義を聞いた時，落語の話が動物分類学の講義になるとは，何とも当たり前でないものだ，と思ったことを覚えている．先生がこの映画をご存知だったかどうかは知るべくもないが．

本書を読む中で，忙しさや単調な仕事の繰り返しの中で，ともすれば論文という成果主義にとらわれて，条件反射やステレオタイプに埋没していた自分に気づかされる．自然を見る目や思考が鈍っていたことも教えてくれる．書評を生前にお届けできなかったことや，発刊から２年もたってからの拙稿に悔いが残るが，先生の偉業の一部を紹介できたことに僅かながらの安堵を感じている．

2007年正月の花井先生を囲む会で，花井先生ご自身は次の著作に挑戦されていることを語っておられた．それが叶わぬ夢となったのは口惜しいが，2008年12月の花井先生を偲ぶ会では，その遺稿を「自然史科学ノート」として出版する計画が池谷仙之氏から提案されている．自然のとらえ方や自然史科学の本質，科学哲学の視点などを再び教えていただけることが楽しみである．本書のはじめにの最後の一節，「先生方の教育や研究の合間とか，学生諸君の勉強の一時を『カイミジンコに聞いたこと』で楽しんでいただければ幸いである．」を紹介して，本書が広く地質学徒に読まれることを期待しながら結びとしたい．

（安藤寿男）

国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ1

「箱根火山たんけんマップ
―今，生きている火山―」

新シリーズ登場！

A2版両面フルカラー印刷．
ハンディタイプで野外での観察に最適です．
教材としてもぜひご活用下さい．

小・中学生向け地質リーフレット新登場．
さあ！フィールドたんけんに出かけよう。

購入希望の方は、学会事務局まで．<main@geosociety.jp>　電話03-5823-1150

会員頒価　300円

学協会・研究会報告

第４回IGCP516国際シンポジウムおよび巡検参加報告

上久保　寛（名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻）
菅森　義晃（大阪市立大学大学院理学研究科地球学教室）

第４回IGCP516（Geological Anatomy of East and South Asia : Paleogeography and Paleoenvironment in Eastern Tethys）国際シンポジウムがタイ王国，バンコク（正式名称は省略）のChaophya Park Hotelで行われた．今回のシンポジウムは，チュラロンコン大学の地質学教室創立50周年を記念して行われたGREAT 2008（Geoscience Resources and Environments of Asian Terranes）および第５回ASPEG（Asia Pacific Symposium on Environmental Geochemistry）シンポジウムと共同で行われた．プレ巡検（11月20日～23日）について上久保が，シンポジウム（11月24日～26日）およびポスト巡検（11月27日～12月１日）の様子を菅森が以下に報告させていただく．なお，次回のIGCP516国際シンポジウムは中国雲南省の昆明市で，９月末～10月上旬ごろに開催される予定である．

プレ巡検

プレ巡検は11月20日～23日の日程で行われ，２つのコース（Ａ１およびＡ２）が組まれていた．Ａ２巡検にはタイ東北部の中生界の観察とタイの恐竜博物館の見学が組まれていた．筆者はＡ１巡検に参加した．

Ａ１巡検は，タイ北西部のPichit-Mae Sotにかけて，チュラロンコン大学のPunya Charusiri博士による案内のもと開催された．本地域の地質はGondwana-Tethys Divideと呼ばれる縫合帯と関連が深い．参加人数は日本，タイ，ミャンマー，英国，中国，インド，イランの７カ国から計23名であった．日本からの参加者は石原舜三，石田啓祐，鎌田祥仁，Francis Hirsch，上久保　寛，Didit Hadi Barianto と石田さん，Hirschさんのご家族の計８名であった（敬称略）．

20日はバンコクを出発してPichitにあるChatree鉱山に向かった．途中，デモ隊によって道路を封鎖される出来事に遭遇したが，14時には鉱山に到着することができた．Chatree鉱山はペルム-三畳紀の火成活動に伴う鉱床で脈中に金を胚胎する．豪州Kingsgate Consolidated社とタイBanpu社とで設立された現地合弁会社Akara Mining社が採掘を行っている．現地では鉱石や母岩の観察，製錬施設の見学を行った．

21日は早朝にSukhothaiの遺跡群を観察した後，Mae SotにあるPagan鉱山を訪問した．Pagan鉱山はZnを胚胎する熱水鉱床および風化鉱床で，ジュラ紀石灰岩-砕屑岩中に発達する．本鉱山はタイ政府とベルギーVielle-Montagne社の合弁会社であるPadaeng Industry Public Company Ltd.が採掘をしている．現地では鉱石や母岩の観察，製錬施設の見学を行った．鉱山を見学した後，Mae Sotの北に分布する第三紀のOil Shaleを観察した．本露頭では，参加者が魚類の化石を発見した．

22日早朝にタイとミャンマーとの国境を訪れた後，Mae Sot-Takの間の山間部に露出するジュラ-シルル系を観察した．ジュラ紀の石灰質シルト岩，三畳紀チャートを覆うジュラ紀礫岩，ペルム紀石灰岩，三畳紀石灰岩（写真１）とペルム紀石灰質砂岩，シルル-デボン紀の石灰質千枚岩，先カンブリア代（？）の花崗岩マイロナイトを順に観察した．50 kmあまりの幅に時代・岩相ともに多様な岩石が分布していることがこの地域の地殻変動の複雑さを物語っている．

写真１．三畳紀の石灰岩を観察する参加者．

23日はTak地域の三畳紀花崗岩およびそれに伴うアルカリ長石のNam Dib鉱山を見学した．ペグマタイト鉱床およびアルビタイト-グライゼン鉱床である．

本巡検では堆積岩-火成岩-鉱床という多様な岩石を観察する機会を得て，それぞれの分野のエキスパートから説明を頂くことができ，極めて有意義であった．また，私個人にとっては，タイの若い地質学徒・地質学者と非常に仲良くなった事が，今後の公私にわたる重要な財産となった．

さて，巡検最終日の夜には，会場の向かいの建物のRatchavipha roomにてIcebreaker Partyが開催され，Ａ１とＡ２の巡検参加者およびこの日に到着した学会出席者が参加した．会場のあちこちで再会を喜ぶ声が聞かれた．筆者も嬉しく楽しい時間を過ごした．

シンポジウム

シンポジウムは11月24日から11月26日までの日程で行われた．計16カ国（タイ，日本，中国，ミャンマー，英国，マレーシア，韓国，アメリカなど）から215名の参加があった．このうち，日本からは26名が参加した．108件のオーラル発表と46件のポスター発表が行われた（いくつか講演キャンセルがあったが）．

講演会場となる部屋は３つ設けられていた．１つはChaophya Ballroomという部屋で，約400人分のテーブル，椅子，水の入ったグラス，鉛筆およびメモ用紙が用意されていた．スクリーンは３つあり，前に１つと両サイドに設置されていた．残りの２部屋はRachada １およびRachada ２という名称で，約100人分の椅子が用意されていた（写真２）．講演時間は基調講演が45分，招待講演が30分，一般の講演が20分であった．講演は９時から始まり，概ね１～２時間ごとに休憩を挟んだ．終了時間は日により異なっていたが，少なくとも17時30分には終了するスケジュールであった．昼食を除く休憩時間にはコーヒーや紅茶，軽食が振舞われ，ホテルのプールサイドでおしゃべりを楽しむ光景が印象的であった．

ポスター会場は受付を隔てて２つの場所に設置されており，１つはChaophya BallroomとRachada 1およびRachada 2の間にある廊下，もう１つは講演会場とは別方向に設置されていた．２日目以降は前者のポスター会場がChaophya Ballroomの後部に移動されていていた．コアタイムは11月24日～26日の13：00～13：30の昼食後に設けられた．

筆者は主にテクトニクスと層序に関するセッションを聴講した．東南アジアのテクトニクスについては，地元ということもあってか中身の濃い議論が行われた．特にI. Metcalfe氏の東南アジアのテクトニクスについての講演は，会場となったRachada 1の部屋は超満員で大盛況であった．東南アジアのテクトニクスについて必ずしも深い知見があるわけではない筆者にとって，今回のシンポジウムはそれについて学ぶよい機会であった．また，タイにおけるペルム系放散虫生層序に関する講演は，日本や中国のそれとの違いがある点で非常に興味深かった．

また，運営に関して，チュラロンコン大学の学生を中心とするスタッフの対応がとても親切であり，彼ら彼女らの笑顔が印象に残っている．さすが，「微笑みの国」である．

11月24日には，Symposia banquetがChaophya Ballroomで催された．お腹が膨れ

写真２．Rachada 2での講演の様子．

だしてきた頃，今回のシンポジウムに関わった方々の挨拶やコメントが始まり，その合間を縫って，チュラロンコン大学の地質学教室の学生さんたちが，タイのダンスを披露し，学生さんたちを中心に大いに盛り上がった．Symposia banquetも後半になると，参加者の一部もダンスに加わり，大いに盛り上がった．その後，会場の後片付けが始まっても，タイの学生さんや教員の方（教員の方々が率先して盛り上げていたのはとても印象的）を中心に盛り上がっていた．歌声が会場から止むことはしばらくなかった．

なお，11月26日夜からスワンナプーム国際空港が反政府市民運動によって閉鎖されるという事件が起こった．そのため，ジンポジウム終了後の11月27日夜以降にバンコクを発つはずだった参加者はしばらくバンコクでの滞在を強いられたようである．また，ポスト巡検も空港閉鎖などにより，開催が危ぶまれたが，若干予定を変更して執り行われた．

ポスト巡検

ポスト巡検の案内者は，Vichai Chutakositkanon氏，Chakkaphan Sutthirat氏，Thasinee Charoentitirat氏およびMichal F. Ridd氏の４名であった．本巡検は，主にSa Kaeo-Chanthaburi Accretionary Complexの代表的な岩相（＋カンボジアのアンコール遺跡群）を見学するという趣旨であった．巡検参加者は15カ国（タイ，日本，中国，マレーシア，韓国など）61名であった．日本からは12名が参加した．

ポスト巡検参加者らは５時30分にシンポジウム会場となったChaophya Park Hotelおよびチュラロンコン大学のゲストハウスにそれぞれ集合した．後者から出発したバスとChaophya Park Hotelで合流後，６時40分にChaophya Park Hotelを揃ってバス２台は出発した．車内では時折ガイドによる町の説明などが行われた．

11時１分にSTOP１に到着した．STOP１はMichal F. Ridd氏により説明が行われた．Khao Thalai Red-beds層に帰属する三畳紀古世ないし中世以前の赤色砂岩－礫岩互層の露頭を観察した（写真３）．露頭は波打ち際に位置し，天候が悪ければ参加者は露頭に近づけなかったであろう．露頭では，明瞭なチャネルや礫を切る脈が認められた．地層の上下は東および西のものがあるとの説明だった．個人的に興味深い堆積構造や変形構造があり，詳しく観察したかったが，観察時間が約30分と短く，あっと言う間に出発の時間になってしまった．

12時45分～14時まで川辺のレストランで昼食を摂った後，World Safireギャラリーでサファイアの加工工程や世界各地から集められたサファイアを見学した．職人が一粒一粒丹精こめて磨いたり，完成品のチェックをしたりする様子に職人魂を感じた．一粒３万円のものが小さな袋たっぷり（約600万円相当？！）入ったサファイアに一同興奮を覚えた．サファイアを見る参加者の瞳は宝石のように輝いていた．

World Safire ギャラリーを15時01分に出発し，バスで約１時間かけてSTOP３に到着した．STOP３では泥質混在岩（メランジュ）を観察した．この露頭はSa Kaeo-Chanthaburi Accretionary ComplexのBan Nong Bon unitに帰属するとの説明であった．露頭は足元に僅かに露出しているものと，道路の切割に植生に多くが覆われたものとがあり，必ずしも露出状況は良好とは言えなかったが，剪断を受けた泥質岩中に，筆者が観察した範囲では，主に砂岩，まれにチャートのブロックを含んでいるのを確認できた．少し離れた場所ではチャートや石灰岩のブロックが見られたらしい．本露頭からは年代決定に有効な化石は得られていないとの説明であったが，このユニットのチャートおよび石灰岩の年代はペルム紀，砕屑岩の年代はペルム紀～三畳紀であるらしい．

16時33分にSTOP３を出発し，17時48分にSTOP4に到着した．周辺はすでに日が暮れて，非常に暗い中でSa Kaeo-Chanthaburi Accretionary ComplexのKhao Hleam unitのものとされるPillow Lavaを観察した．道路の切割に露出し，植生も少なく，露頭状態は良好であったが，暗さは何ともならない．10分程度で観察を切り上げ，初日の宿となるSa KaeoのIndochina Hotelに向かった．この日は後２つのポイントで観察が予定されていたが，日没のためそれらに訪れることはできなかった．

翌日11月28日には陸路でカンボジアへ入った。国境を越えると我々はタイ人グループとタイ以外の国のグループに分かれてバスでSiem Reapへと向かった．カンボジアに入国してから寺院をお借りして１回目の休憩に入った．寺院の裏には石灰岩を主体とする山があった．石灰岩にはウミユリが豊富に含まれており，参加者は石灰岩の観察を楽しんだ．また，山のふもとではサンゴや腕足類などの化石がたくさん転がっており，地元の子どもと一緒になって化石を採集した．途中，バスの故障というアクシデントもあったが，参加者はSiem Reapのホテルに15時に到着した．その後，近くのTonle Sap湖を見学した．

11月29日～30日にかけて，我々はカンボジアのアンコール遺跡群の見学を行った．これらの遺跡にはラテライトや砂岩が多く使われており，遺跡の芸術性だけでなく，これらの起源や内部構造についても一部で議論が行われた．Kbal Spean という遺跡（山奥の河床に彫刻が彫られている）では，遺跡に到着するまでの山道にKhorat層群の砂岩の転石が多く認められ，それらには多くのクロスラミナが刻まれていた．参加者らは遺跡に到着するのが遅れるにもかかわらず足を止めてクロスラミナを撮影していた．

12月１日は，空港閉鎖がまだ続いていたためカンボジアから母国へ帰国するタイ人以外のグループとタイ人を中心としたタイに戻るグループに分かれた．タイに戻るグループはもう一方のグループに見送られながら８時35分に宿を出発し，12時には国境に到着した．14時にはタイに入り，バンコクのチュラロンコン大学に18時前には到着・解散し，ポスト巡検は無事に終了した．

ポスト巡検全体を通して，やや見られる露頭が少なかったことや観察時間が短かった点は残念に思うが，タイトなスケジュールの中，効率よくSa Kaeo-Chanthaburi Accretionary Complexの代表的な岩相を観察できたことはとてもよかった．ポスト巡検の巡検案内書には，多くの日本人研究者の成果が引用され，タイ周辺の地質の研究に重要な貢献をしていることが読み取れる．今後も日本人研究者の東南アジアでの活躍が期待される．また，空港閉鎖という極めて稀な事態が起こっていたにもかかわらず，安全で快適な巡検を遂行してくださった案内者の方々に感謝したい（なお，筆者はウタパオ空港発の最後の臨時便で予定より約半日遅れで自宅に戻れた）．

写真３．STOP1で露頭を観察する参加者．

特集：地質学に基づいて，地質学を活かして
ーどんな職業につきたいですかー　Vol.6

日本地質学会では就職支援ワーキンググループを作り，さまざまな就職支援の道を探り，推進していこうと考え，それぞれの分野で生き生きと活躍していらっしゃる先輩の方々をご紹介しています．（日本地質学会就職支援ワーキンググループ）

★犯罪捜査と地質学の意外なつながりー裁判でお目にかかるかもしれません

杉田律子（科学警察研究所）

小学生時代から大きくなるにつれ，天文→太陽系→惑星・衛星と段々近くのものに興味が移り，地球も惑星の一つ，地質学は惑星学に通ずる，と思い込み大学で岩石学を志しました．それがまさか警察に就職することになろうとは，周囲も本人も全く想像すらしていませんでした．私の勤務する科学警察研究所（科警研）は警察庁の付属機関で，国立試験研究所の一つです．よく間違えられる科学捜査研究所（科捜研）は各都道府県警察に属しています．

推理小説やドラマの中では当たり前のように行われている鑑定検査の中には，未だに実用化されていないようなこともあります．時代の変化と分析法の進化に応じた証拠資料の科学的鑑定法の開発と実用化，そして普及が科警研の仕事です．

Q・あなたはどのようにしてこの職につきましたか

修士まで進みましたが，研究者にはなりたいものの大学にいるのもなぁと思い，運を試すつもりで国家公務員試験を受けました．研究所では公務員試験受験者から研究職の地質学分野で採用を唯一行っていた科警研の面接を受けました．実は，研究所の存在そのものを知ったのは公務員試験を受けたときで，その年だけ地質からの採用があり初めて訪問したのも８月になってからという状態でしたが，無事，採用通知が届きました．

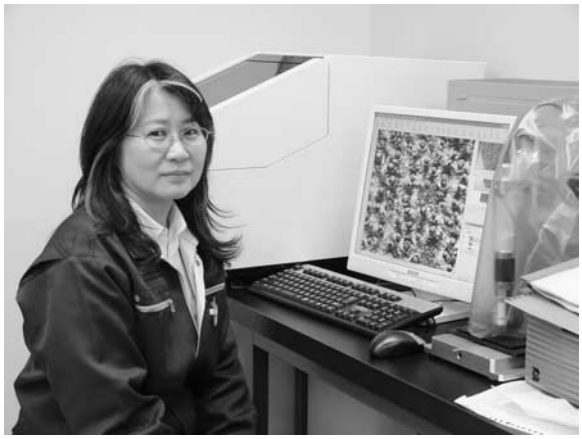
Q・典型的な１日の仕事内容について教えてください

実験であったり，鑑定検査や研究であったり，書類作成であったり，講義であったりとその時々によって異なります．急ぎの鑑定が飛び込んでくれば，自分の研究は即中止してそちらを行うということもあります．科警研には付属の研修所もあり，各都道府県の科捜研職員に対する教養も行っています．年に数週間程度はそちらで講義や実習もします．

Q・これからあなたの職業に就く事を目指すとしたら何をするべきでしょう

第一に推理小説やドラマのことは忘れてください．憧れで採用されても，現実とのギャップに悩むだけになります．もちろん，趣味で読んだり見たりするのをやめろというわけではありません．

採用数が少なく，特に地質関係はかなり厳しいのが現実です．



Ⅰ種試験の理工Ⅳ分野で合格をもぎとる能力を養ってください．

実務上は幅の広い知識と色々な分析機器の取り扱いを要求されます．そして，どこの社会でも同じだと思いますが，一般常識と最低限の礼儀は身につけていて欲しいと思います．

Q・学部・修士・博士・PDからそれぞれ入社することは可能ですか？

修士が最も多いようですが，基本的に国家公務員Ⅰ種試験合格が原則ですので，試験の年齢制限を越えていなければ問題ないと思います．

Q・就職してからの進路として多様な道がありましたらご紹介ください

１－２年程度警察庁や都道府県の科捜研に出向や派遣されることがあります．学部や修士で採用になった人は社会人大学院生として博士号を取る場合も多くなっています．内地留学や国外留学の可能性もあります．内部での異動も全く無いわけではありません．

また，異動をしなくても，学生時代の専門とはあまり関係のないものについて研究することは珍しくありません．

★新聞記者の仕事ー科学関係の取材に携わってー

佐々木英輔（朝日新聞記者）

Q・どのようにしてこの職につきましたか

中学・高校時代から，地球科学のスケールの大きさ，ダイナミックさや，地域の自然の成り立ちに関心を持っていました．こうした勉強をしたい，研究にかかわってみたいと思う一方で，世の中の動きや課題を間近で追ってみたい，記事を書く仕事をしたいとの気持ちもありました．幸い，新聞記者は学部不問ですので，理学部に進み地形学を専攻しました．その間，どちらに進むかを考え，最終的にこの職業を選択しました．

現在は東京本社の科学グループ（旧科学部）に所属しています．こうした本社の各部門に配属されるのは入社５年後くらいからで，それまでは地方の県庁所在地などで，事件・事故や行政を中心に地域社会の様々な動きを取材します．どの部門へ進むかは，本人の希望のほか，適性や実績も踏まえて決まります．私の場合は，松山，大津を経て，大阪本社の科学部に配属されました．その後，東京，福岡，東京と異動しながら主に科学関連分野の取材に携わっています．これまで，医学や医療，食品安全，宇宙，先端技術，自然災害，環境など様々な分野を担当してきました．今は原子力を受け持っています．最近は原発の耐震性が焦点になっていて，地形学や地質学とも密接です．

Q・１日がどのように過ぎますか

相手があっての仕事ですので，日中は貴重な取材の時間です．アポイントを取って会いに行く，電話で問い合わせをする，記者会見に出る，審議会や学会などをのぞく，といった繰り返しです．担当によっては，出先を拠点にすることもあります．今は原子力と関係する経済産業省にいますし，以前は厚生労働省に通っていました．突発的なニュースにも対応しなければなりませんので，日々の仕事は瞬発力が問われます．

一方で，数週間から１カ月以上かけ，じっくり取り組む取材もこなさなければなりません．資料の読み込みや，急ぎでない原稿の執筆は，夕方以降が多くなります．新聞製作は未明まで続きますし，帰宅は深夜になるのが普通です．

ただ，自分の裁量で動ける部分も結構あります．現場に立ち会い，最新の生の情報に触れられるのは，醍醐味でもあります．

Q・これから就職するとしたら何をするべきでしょう

何よりも，きちんとした職業意識，問題意識を持てるかです．どんな職業かをよく知り，何をしたいかをよく考えておいていただければと思います．

新聞記者は，世の中で何が起きているかを様々な立場の人から取材し，情報を吟味して記事にまとめるのが仕事の基本です．広くいろいろなことを知りたい，たくさんの人に会いたいという好奇心のある人のほうが向いていると思います．さらに，何が課題か，問題はないのか，といった批判的な視点や，独りよがりに陥らないバランス感覚も求められます．単に，科学の面白さを分かりやすく伝えたい，専門を生かしたいということであれば，別の道があるかもしれません．

採用の年齢制限の範囲内なら学部卒でも博士でも構いません．最近は別の職業を経て入社する人も多くいます．ただ，専門知識よりも，人間としてどんな経験を積んできたかが問われるはずです．あとは社会常識を持ち，最近のニュースをある程度把握し，若干の文章力を持ちあわせていればいいと思います．

写真　環境問題についてツバル政府関係者に機上で取材

Q・就職してから多様な道がありましたら，ご紹介ください

理学部や工学部出身で政治記者，事件記者，文化記者などになっている人はいます．逆に文学部や法学部出身で科学を取材している人もいます．どんな道に進むかは，本人の関心や適性次第です．入社後，様々な取材を経験しますので，新たな関心分野を見つける機会は結構あるといえます．

最後に，専門との関係について一言．大学で学んだことを直接生かす機会が多いわけではありません．例えば地震の取材でも，地球物理学や建築学，土木工学など様々な学問が関係します．隣接分野のことをいかに知らなかったか，思い知らされることがしばしばありました．しかも医学などの担当になれば，本当に基礎から勉強です．学問は日々進歩しますし，取材を通じても学ぶことになります．

ただ，定量的なもののとらえ方，論理的な考え方といった科学の作法や感覚はどの分野にも共通します．生活や社会に科学が広く入り込んでいるなかで，身につけたことが知らず知らずに生きてくる場面は少なくありません．取材相手とある程度共通の土俵で話ができれば，ポイントも押さえやすく，記事の深みも増すでしょう．本当に十分な根拠をもとに結論が導かれているのか，といった眼力も，ニュースの価値判断には重要です．

フィールドでの経験は，「足で稼ぐ」ことが求められる記者の仕事と通じる面もあります．地球科学は防災や環境など地域社会の課題とも密接ですので，私はこれまでの赴任先でこだわりを持って取材してきました．様々な形で，自分ならではの記事を書くことはできるはず．皆さんの将来の活躍に期待します．

秋田大会見学旅行案内書，残部あります．

2008年秋田大会見学旅行案内書について残部があります．購入をご希望の方は，お早めに学会事務局までお申し込み下さい．（昨年札幌大会の案内書もわずかですが残部があります）

e-mail : main@geosociety.jp

・秋田大会（2008）見学旅行案内書　2500円＋送料500円
・札幌大会（2007）見学旅行案内書　2400円＋送料500円

委員会だより

☆日本地質学会男女共同参画委員会

金沢ワークショップご案内
「燃える温泉と地滑りのメッカ　ー地質学と町おこしー」に参加しませんか？

日時：**2009年3月29日（日）〜30日（月）**
場所：金沢&石川県能登半島周辺
日程：29日（日）13：00　金沢駅集合　氷見にて1泊
　　30日（月）15：00頃解散予定
主催　日本地質学会男女共同参画委員会

お子様連れでも参加できます！
　幼・小学生には特別プログラムが用意してあります。もちろん中学生以上も大歓迎です。GeoKids応援プログラムとして、「忍者ハットリくんのからくり時計とすべらない神社のなぞを探検しよう！」を予定しています。受験用？のすべらない神社のお守りなども手に入ります。春休みにぜひご一緒に！

参加申込・問い合わせ先
堀　利栄　shori@sci.ehime-u.ac.jp
Tel: 089-927-9644　Fax: 089-927-9630
申込はなるべくお早めにお願いいたします。

専門部会だより

☆構造地質部会

構造地質部会2008年度例会のご案内

　日本地質学会構造地質部会では，この度「構造地質学と応用地質学の接点」をテーマにし，下記の日程で2009年（2008年度）例会を行う予定です．

3/14（土）
普及講演　会場：長岡市中央公民館大ホール（宿泊：湯元館）
3/15（日）
シンポジウム及び例会（一般講演）
会場：長岡市民営国民宿舎悠久山湯元館（宿泊：湯元館）
3/16（月）
例会（一般講演）　会場：長岡市民営国民宿舎悠久山湯元館

シンポジウムのテーマは下記の通りです．
1．放射性廃棄物地層処分及びCO_2地下貯留関連
2．活断層のモデリング
3．石油探査と構造地質学

　今回の例会は，その趣旨から従来の例会とは異なり，特にシンポジウムのテーマを主な業務として研究されている各研究機関，コンサルタント業界や石油業界の方々の発表を歓迎致します．大学・研究機関の方々の発表も歓迎するのは従来通りです．（下記 URL 参照）
http://struct.geosociety.jp/topics.html

参加申し込み等の期限と方法を下記のようにさせて頂きたいと存じます．

（1）参加及び講演申し込み：**2009年1月末日迄**
（2）宿泊（湯元館）申し込み：**2009年1月末日迄**
（3）講演要旨提出：**2009年2月20日迄**

　（1）と（2）は下記のフォーマットに記入してメールにて松田までお送り下さい（mtatsuo@bosai.go.jp）

2009年（2008年度）構造地質部会春の例会参加申込書

氏名：
性別：
参加希望日：3/14，15，16（例）
宿泊希望日：3/14，15（例）
（宿泊：http://www.sky.sannet.ne.jp/yumoto/）
講演希望：有 or 無
（有の方は，講演題目及び講演希望セッションもご記入下さい．セッションは3つのシンポジウムと一般講演の4つです．発表形式は原則口頭発表ですが，一般講演についてはポスター発表も可能です．その場合，ポスター発表希望と明記して下さい．）

（3）の講演要旨は，地質学会の年会と同じように作成して下さい．作成方法は，今年の地質学会 News 誌5月号にも掲載されておりますし（P.13, 14）ホームページにも掲載されております．http://www.geosociety.jp/science/content0021.html

　作成したPDFファイルを，メールに添付して同様に松田までお送り下さい．なお，不明な点等ございましたら，お気軽にお尋ね下さい．特に長い講演要旨が必要という場合には，その旨ご連絡下さい．検討させて頂きます．
　多くの皆様のご参加をお待ちしております．

問い合わせ先
　松田達生
　防災科学技術研究所地震研究部
　Tel：029-863-7616　Fax：029-863-7610
　E-mail：mtatsuo@bosai.go.jp

支部コーナー

☆西日本支部

第157回西日本支部例会および平成2008年度支部総会のご案内

　以下の要領で，第157回日本地質学会西日本支部例会および平成2008年度支部総会を開催致します．奮ってご参加下さいますようお願いいたします．

西日本支部　支部長　大木公彦

1．日時
2009年2月14日（土）
　9：00〜18：00（予定）例会（口頭・ポスター発表）・総会
　19：00〜21：00（予定）懇親会

2．会場
　例会・総会：九州大学国際ホール（九州大学箱崎キャンパス内）
　懇親会：ファカルティクラブ（九州大箱崎キャンパス内）

3．参加費
例会参加費：一般会員　1,000円，非会員　1,500円，
　　学生　無料
懇親会：　一般会員　6,000円，学生　3,500円（予定）

4．「講演申し込み」・「懇親会申し込み」
講演申込：
講演題目
講演者（所属）
講演方法　口頭発表（15分を予定）またはポスター発表
使用機材（液晶プロジェクター・OHP）
発表者の連絡先
懇親会申込：
参加者氏名
　各申込希望者は，下記（西日本支部事務局庶務）まで郵送・ファックスあるいはメールして下さい．なお，**すべての申し込みの期限は１月30日（金）必着まで**とします．また講演をされる方は，地質学会の講演要旨原稿フォーマットに沿って作成した講演要旨を１月30日（金）必着で，下記まで「郵送」にてお送り下さい．

5．問い合わせ先
〒860-8555　熊本市黒髪2-39-1
熊本大学大学院自然科学研究科　地球環境科学講座
松田博貴
電話：096-342-3424，FAX：096-342-3411，
e-mail: hmat@sci.kumamoto-u.ac.jp

6．宿泊は各自手配をお願いします．

松本徰夫名誉会員，第９回秩父宮記念山岳賞受賞

松本徰夫本会名誉会員が，社団法人日本山岳会より2007年度第９回秩父宮記念山岳賞を受賞された．この賞は，日本山岳会が，山についての造詣が深く，自らも登山愛好者であった故秩父宮殿下を記念して平成10年度に創設した賞であり，１．優れた登山活動，２．山に関する人文・社会・自然諸科学の研究成果，３．山を対象とした芸術作品，を対象として，顕著な業績のあった個人またはグループに対して授与される．今回の受賞は，松本会員（編著）による「ヒマラヤの東，岡日嘎布山群踏査と研究史」（櫂歌書房，2007年）が高く評価されてのことである．

本書については，すでに日本地質学会News（2007年），vol.10，no.7，p.19に，岡田博有名誉会員により紹介されており，また818ページにも達する大部なので詳細を述べることはできないが，受賞との関連で再度紹介しておきたい．本書は，第１部として，広域的な地理・地形・気候・氷河・地質・植物・動物など自然に関する諸科学，仏教・民俗・歴史など人文諸科学，また第２部としてチベット～アッサム探検史・インド測量局の活動やキングドンウォードの足跡など，東ヒマラヤ探検史の全貌，さらに現代中国－インドの国境問題にまで至る極めて広範囲なもので，自然学と人文学が一体となって地域を記述した総合的な地誌である．

松本会員は，1992年山口大学を定年退職後，まさしく“大魚が水を得たごとく”，長年温め続けた中国奥地シルクロードの探検的調査行を開始された．その回数，シルクロード周辺だけでも2004年までに16回，東ヒマラヤ地域へは2001年より，日本山岳会福岡支部の山行として開始され，ほとんど未知の領域の調査を精力的に行われた（山岳，103巻，177-186，2008年）．同氏は，それ以前から青蔵高原・横断山脈東南部の学術登山や調査を主導されてきたが，単にそこへ行くだけではなく，自然・人文の両面にわたって探究し，その成果を公表されてきた．主要な単行本だけでも，「Geology of the Panxi Region」（山口大学，1986），「遥かなる揚子江源流」（NHK出版，1987），「遥かなり秘境可可西里」（NHK出版，1999年），「シルクロード探遊」（葦書房，2001年），「幻の楼蘭，ロプノールの謎」（櫂歌書房，2007年）などの多数にのぼり，今回の受賞もそうした実績の上に立ってのことである．同氏によれば，これらは青蔵高原・西域踏査と探検の一環であり，今西錦司氏の説く「自然学」の実践であるという．

松本会員の並外れた行動力を支えたのは，あくなき探求心－探検精神であり，大いなる遊び心である．地球的自然と人間は一体のものであり，自然科学と人文科学に垣根があろうはずがない．上記の書物は，松本会員が意図する学問のあり方を具現化したものに他ならない．学会外より，こうしたことが評価され受賞に至ったことを，ともにお慶び申し上げたい．　**（加納　隆）**

埼玉県における高校地学教員の活動

小幡喜一（埼玉県立熊谷高校）

■埼玉県高等学校理化研究会の活動

埼玉県内の高校の物理・化学・地学の教員は，埼玉県高等学校理化研究会（以下，埼高理化研と略）に組織されている（生物は，別組織になっている）．この名簿を見ると県内の公立・私立高校には，およそ100名の地学教員がいる．

しかし，このところ埼玉県でも地学教師が減少傾向にある．理科の履修単位数の減少や大学入試科目偏重の教育課程編成の影響により，地学教員の需要が減少し，地学教員の退職にともなう補充が不十分であり，家庭科男女共修や情報科の必修により免許替えも行われている．

さて，埼高理化研の事業は，1）理科教育に関する調査研究，2）見学会・研修会の実施，3）研究発表会・講演会の開催，研究誌の発行などである．地学分野では，地学研究大会を年に1度，1泊見学会を隔年で開催してきた．また，県内の各地区から選出された20名ほどの教員で地学研究委員会が組織され，教材の交流・開発等を行い，行事の企画運営にあたっている．

この委員会では，1990年度に「地学実験実習帳」1995年度に同増補改訂版，1997～2000年度に毎年「地学見どころハンドブック」，2000年度には「デジタル地学実習帳」を作成し，CDだけでなくホームページ上にも公開した．2004年度には，地学の学習内容のエッセンスを30時間で学ぶようにまとめた「ミニマム高校地学」を出版，2007年度にも「実験実習帳」を作成した．

しかしながら，授業確保や旅費の削減のために，埼高理化研の活動が制限されてきている．例えば，地学研究委員会は，かつて年6回，1日出張で行われていたが，1996年度から午後の半日開催，2006年度からは年3回の半日開催になってしまった．そのために，手弁当で休日に集まって活動をするなど苦労している．

■野外巡検研修会

埼高理化研では隔年行事として，県外の地質や施設の見学を行う1泊見学会を，県費出張扱いで行ってきた．しかし，学校予算縮減のために私費負担である研修扱いでの参加が増えてきていた．そしてついに今年は出張扱いを打ち切られてしまった．また，教員研修についても，大学や学協会の指導があり，直接授業に反映されるものでなければ，認められなくなってきている．このために実施継続策として，本年度から野外巡検研修会と改称し，大学や学協会の後援を得た教員研修とし，その報告を各学校だけでなく，地学研究大会で授業実践と合わせて発表することで，県教育局に了承された．生物の宿泊研修会が廃止されたことに比べると，何とか踏みとどまった感がある．

火山を目的に私費ならばと三宅島などもを見学候補にあげられていたが，県費出張の枠がはずれても2泊が認められず，伊豆大島への巡検となった．開催にあたっては日本地質学会に後援をいただいた．

この改変にともない準備が遅れ，計画が2008年8月26日（火）～27日（水）に固まったのが，実施2か月前の6月で，開催通知が7月にずれ込んでしまったものの，参加者14名で無事実施できた．私と一緒に案内を勤めていただいた県立松山高校の奥先生には，部活動の合宿などの経験を生かして細かな点まで計画していただき，大変お世話になった．

東京港竹芝桟橋に7：30集合し，8：10発の高速船で出航，10：15には岡田港に到着した．1日目は，2台のレンタカーに分乗して回った．午前中に，元町火葬場裏で1986年C割れ目火口の溶岩流を観察，伊豆大島火山博物館にて展示を見学して，昼食をとった．午後は，地層切断面を観察，トウシキの鼻付近にて溶岩台地の玄武岩を採集（緻密なので密度測定によい），今崎マール，岳の平（スコリア丘），ヒクボ（爆裂火口）を望む．さらに，波浮港展望台にて爆裂火口（マール）である波浮港を望み，筆島遊泳場付近にて筆島（古期火山の火道角礫岩）および岩脈を観察した．夜間は天体観測の予定であったが，生憎の小雨模様のために中止となった．

2日目は朝食後，宿舎のバスで三原山外輪山，御神火茶屋まで送っていただき，徒歩での観察となった．午前中は霧と小雨の中，内輪山から火口を一周した．1951年溶岩流のアア溶岩およびパホイホイ溶岩流，内輪山の火山砕せつ物と溶岩流による成層構造，1986年A火口からの火山弾・火山岩塊・スパター，1986年A火口・B火口列周辺の噴気の観察，火山砕せつ物（火山弾やスコリア等）の採集を行った．

御神火茶屋に戻って昼食を終えると，霧が晴れ，三原山の溶岩流が観察できた．その後，1986年C割れ目火口列（C3火口～C5火口）を観察、湯場三叉路からバスで岡田港に向かった．岡田港16：45出航，東京港竹芝桟橋18：25着，その後解散となった．

参加者はそれぞれ大量のサンプルと画像を教材用に持ち帰ることができた．

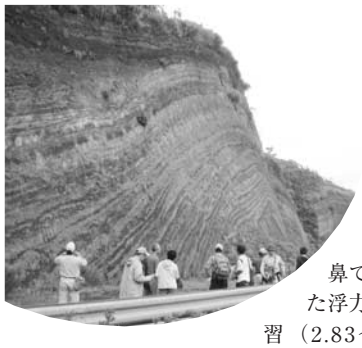
■地学研究大会

地学研究大会もかつては1日開催であったものが，1997年度から午後半日開催になっている．多くの地学教員が集えるように，開催時期を定期考査に合わせ，2002年度から演示実験やポスター発表を同時に行う地学屋台村を導入し，参加しやすい午後3時以降に講演会を行う等の工夫を行っている．

2008年度は12月9日（火）12：30から県立川越女子高校において行われた．県内の地学教員の半数近い45名が参加し，屋台村の発表は17件であった．講演会は鶴見大学短期大学部の後藤仁敏先生による「ヒトの体の40億年－人体地質学入門－」であった．

伊豆大島での野外巡

地学教育のページ



検研修会とその成果としての授業実践の報告は，地学屋台村の一部として行った．採集した火山弾の展示と観察実習（形、触った感じ、方位磁石による残留磁気の測定），トウシキの鼻で採取した玄武岩を利用した浮力を用いた岩石密度測定実習（2.83～2.88g/cm^3）の実演，1986年の噴火のビデオと研修会での画像を合わせた火山活動の授業展開，アア溶岩・パホイホイ溶岩・溶岩樹形・爆裂火口の画像を利用した，溶岩の粘性や噴火様式の授業展開例などを発表した．

■おわりに

広い分野を束ねた地学という科目の指導を担当し各学校で孤軍奮闘している地学教員のために見学会・研修会など，教材を研究し交流を深める機会は不可欠であり，これからも確保していきたい．また，魅力的な授業を構築していくためには，教員自らが教科書では得られない実際の自然や最新の研究に触れて感じ，考えることが大切であることを，これからも訴えていきたい．

今年度の野外巡検研修会では日本地質学会に後援をいただいたことに感謝する．次回以降は早めに準備を進め，案内者の派遣もお願いできれば，さらに参加者も増えるのではないかと期待している．また，地学研究大会の講師にもご協力いただければ幸いである．

CALENDAR

2009.2～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

2009年

2月　February

☆第157回西日本支部例会および平成2008年度支部総会
2月14日（土）
会場：西日本支部例会・総会：九州大学国際ホール（九州大学箱崎キャンパス内）
http://www.geosociety.jp/outline/content0025.html

◯The International Groundwater Symposium 2009（IGS-TH 2009）
2月16日（月）～21日（土）
会場：タイ・バンコク
http://www.igsth2009.com/home.html

3月　March

◯国際シンポジウム　1st International Geoscience Symposium
“Precambrian World 2009”: Bridging Precambrian and Modern Geosciences
3月6日（金）～8日（日）
場所：九州大学西新プラザ・いのちのたび博物館（北九州自然史博物館）
http://www.kochi-u.ac.jp/marine-core/PW2009

☆構造地質部会2008年度例会
3月14日（土）～16日（月）
普及講演　会場：長岡市中央公民館大ホール
例会会場：長岡市民営国民宿舎悠久山湯元館
http://struct.geosociety.jp/struct-index.html

◯日本堆積学会2009年京都枚方大会
3月27日（金）～30日（月）
会場：大阪工業大学情報科学部枚方キャンパス
http://sediment.jp/

◯日本地理学会2009年春季学術大会
3月28日（土）～30日（月）
会場：帝京大学（八王子市大塚359）
http://www.ajg.or.jp/

☆日本地質学会男女共同参画委員会主催　金沢ワークショップ
「燃える温泉と地滑りのメッカ－地質学と町おこし－」
3月29日（日）～30日（月）
場所：金沢&石川県能登半島周辺
参加申込・問い合わせ先
堀　利栄　shori@sci.ehime-u.ac.jp

5月　May

◯日本地球惑星科学連合2009年大会
5月16日（土）～21日（木）
会場：幕張メッセ国際会議場
http://www.jpgu.org/

◯日本地下水学会50周年記念講演会
地球の未来、地下水の役割
5月29日（金）
場所：日本科学未来館みらいCANホール（東京都江東区）
http://jagh.jp/

◯日本地下水学会2009年春季講演会
5月30日（土）（記念講演会・式典の翌日）
場所：東京大学駒場キャンパス（東京都目黒区）
http://jagh.jp/

6月　June

☆2009年中部支部年会のお知らせ
6月13日（土）総会・シンポジウム・懇親会
6月14日（日）地質巡検
会場：山梨大学教育人間科学部講義棟
シンポジウム：「フォッサマグナ地域の地殻変動現象と中部地方の最新情報」

7月　July

◯第46回アイソトープ・放射線研究発表会
7月1日（水）～3日（金）
会場：日本科学未来館（東京都江東区）
申込締切：2009年2月28日（土）
http://www.jrias.or.jp/

8月　August

◯ZMPC2009国際会議
International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals 2009
8月3日（月）～8月7日（金）
会場：早稲田大学（東京都新宿区）
http://www.zmpc.org/

9月　September

☆日本地質学会第116年学術大会
9月4日（金）～6日（日）
会場：岡山理科大学ほか
http://geosociety.jp

◯第3回国際地学オリンピック台湾大会（国際大会）
9月14日～22日（予定）
場所：台湾
http://www.jeso.jp/

AGU Chapman Conference on Shallow Mantle Composition and Dynamics Fifth International Orogenic Lherzolite Conference

金沢大学　修士２年　長島僚子

（第５回　国際造山帯レールゾライト会議ー上部マントルの構成とダイナミクスに関するAGUチャップマン会議ー）

2008年９月22日から９月26日にかけ，米カリフォルニア州シャスタ山中の保養施設Mt. Shasta Resortにおいて，Fifth International Orogenic Lherzolite Conference（第５回　国際造山帯レールゾライト会議）が開催された．レールゾライト会議は1990年から続く国際会議で，造山帯かんらん岩を産する地域で行われ，世界的に有名なかんらん岩露頭をめぐる巡検がセットで用意される．過去４回の開催地は，フランス（Lherz岩体，Lanzo岩体巡検），スペイン（Ronda岩体），イタリア（西アルプスのかんらん岩体群），そして前回が2002年の日本（幌満岩体）である．第５回目の今回には，Josephineかんらん岩体，及びTrinityオフィオライトに近く位置するShasta山が選ばれた．会場兼宿泊施設となったMt. Shasta ResortはShasta山を臨むゴルフ・リゾートであり，朝には様々な野鳥の声，夕方にはShasta山の夕映え（写真１），そして夜は宿泊するロッジまでの道中で壮大な星空を堪能することができた．このような自然に包まれた環境で，会議では朝８時から夜８時までのハードスケジュールのもと，上部マントルに関する多角的な議論が活発に交わされた．参加者は学生36名を含む125名で，米国，フランス，イタリア，カナダなど10カ国以上から研究者が集まった．今回は8名（内大学院生２名）がわが国から参加した．５日間にわたる会議は，59件の口頭発表（会場は１つ！），82件のポスター発表と半日巡検から成り，更にそれぞれ２泊３日のプレ（Josephine）・ポスト（Trinity）巡検が準備された非常に充実した内容であった．このうち５日間の会議の模様のみを以下に報告していく．

（写真１）学会会場からのShasta山の眺め．

会議初日（9/22）はコンビーナーのPeter Kelemen氏による挨拶に始まり，続いてレオロジーのセッションが行われた．15件の講演は造山帯かんらん岩の変形に関する構造地質学的研究が主で，せん断帯とかんらん石のLPO（格子定向配列）の関係，シュードタキライトの成因，メルト分離に関連した微細組織の発達，など興味深いものが多かった．中でも，海洋上部マントル中では鉱物の粒径進化が地震波低速度帯の成因と密接に関連しているだろう，という趣旨の講演が面白かった．夕方からは17件のポスター発表があり，参加者はビールを片手に議論を繰り広げていた．こちらもレオロジーに関するセッションで，日中とあまり変わらない内容であったので，口頭発表で聞き逃したポイントなどを質問することもできた．また，かんらん岩体中の斜方輝岩脈の走る方向と歪み速度との間に相関関係がありそうだという興味深い研究の途中報告があり，その後の進展が気になる．

２日目（9/23）は地球化学がメインであり，まず中央海嶺のセッションから始まった．オフィオライト，マントルゼノリス，及びアルプス造山帯に関する４件の口頭発表に続き，海嶺と岩石学をテーマとするポスターセッションに移る．輝石中の微量元素の挙動を地質速度計に利用するという興味深い発表があったが，私もこのセッションで発表していたので，残念なことに十分議論に加わることができなかった．その代わり，発表中は英語で自らの研究内容を伝えるとともに，多くの貴重なコメントをいただくことができた．それから，さんさんと降り注ぐ太陽の下でビュッフェ形式の昼食を楽しんだ後，引き続き海嶺と岩石学に関する口頭発表が行われた．午前中は鉱物の主要化学組成を用いた研究が多かったが，午後の発表では微量元素組成，同位体地球化学によるものがほとんどであった．中でもメルト-岩石相互作用を扱った研究では美しい岩石組織が紹介されており，複雑だが興味深かった．その後休憩を挟んでダイナミクスのセッションに移ったが，高圧実験の結果と天然（特に沈み込み帯）の岩石の観察結果を比較する話が面白かった．

３日目（9/24）の午前中は昨日に引き続きダイナミクスのセッションにて，高圧実験についての口頭発表を聞いた．工夫を凝らした様々な形の実験セルが興味深く，どのように天然の条件を実験室で再現するかという点が勉強になった．この日はポスターセッションがなく，午後はShasta山の火山巡検が催された．会議に出席していた全員が参加していたため，案内役のTim Grove氏の軽快な解説を野外にて聞き漏らさないようにするには大変苦労した．Shasta山はカスケード火山列の南端に位置する成層火山で，1786年に噴火するまで４つのステージの噴火過程を経てきたとされている．まずは荒涼とした草原地帯の中をバス３台で進み，最初のストップ地点Lava Parkへと向かった．ここでは～10000から～9400年前に噴出した安山岩溶岩を観察した．露頭は溶岩礫に覆われた崖で，サンプルを簡単に手にとって見ることができた．ＰＭＡ（Ｐｒｉｍｉｔｉｖｅ Magnesian Andesite）と呼ばれる暗灰色の細粒な安山岩であり，淡緑色の単斜輝石，暗褐色の斜方輝石などから成る斑晶が観察できた．その後バスで30分ほど移動し，針葉樹林の中を10分ほど歩くと２番目の地点に到着した．Whaleback-Deer Mtn. Saddleでは，HAOT（High Almina Olivine Tholeiite）を観察した．黒色のソレアイト溶岩中に粗粒なかんらん石の結晶が見られる．美しいサンプルを持ち帰ろうと，最初の露頭よりも多くの参加者がハンマーをふるっていた．またここでは，噴火後に被った塑性変形による生々しいせん断帯も見ることができた．その後さらに徒歩で移動し，最初の露頭とは組成の異なるPMAを観察してから，最後の地点であるSargents Ridgeに向かった．そこは山頂ではないが，Shasta山の中で最も古い（～250000から～130000年前）噴火で形成された丘で，Medicine Lake Volcanoを臨む眺望の美しい場所であった．高山植物を保護するため，展望台にバスを停めてから２グループに分かれて露頭まで歩いて行くことになった．天然のロックガーデンを見やりつつ，ゆるい上り坂を登りきると，赤灰色の砕屑岩に覆われた見晴らしの良い場所に出た（写真２）．この砕屑岩は氷河によって破砕された安山岩もしくはデイサイトであり，石同士をぶつけると良い音がする．好みの音が出るサイズの組み合わせを選び，持ち帰ることにした．この場所からRed Butteの安山岩ドームの説明を受けた後，展

望台に戻って後発のグループと交代した．それから１時間半ほどで後発隊が戻るまでの間，先のグループの面々は議論やおしゃべりに花を咲かせた．しかし筆者にその余裕は無く，ひたすらトイレを我慢していた．２番目の地点で，最後のトイレポイントだと忠告されていたのだから無理にでも行っておけばよかったという後悔に苛まれながらも，無事に学会会場に帰りついた．

４日目（9/25）の午前中はダイナミクスのセッションで７件の口頭発表が行われた．かんらん岩中に発生したメルトによる元素の動きが主なテーマで，ここでは，メルト-固体間での元素分配をモデリングした結果から，各地のかんらん岩体中のダナイトの成因を探るという研究が興味深かった．午後のセッションはクラトニックマントルであった．まずは６件の口頭発表，ポスターセッションをはさんで夕食後にも２件発表があった．大陸地塊下のマントルにあまり馴染みが無かったので，このセッション自体が新鮮に感じられ勉強になった．夕方には17件のポスターが貼り出され，90分という時間は議論するにはあまりに短かった．

最終日の５日目（9/26）は日中にマントル地球化学に関する９件の口頭発表があった．同位体比から年代を決定する研究が多く難しかったが，筆者と同じ学年の学生も発表しており感心した．自分もがんばろうとモチベーションが高まり，早く日本に帰りたくなった．午後は低温地球化学のセッションで５件の口頭発表があり，かんらん岩中に蛇紋石や炭酸塩鉱物が形成される際の化学種の挙動，岩石と生物の関わりに関する研究は非常に興味深かった．蛇紋石研究で名高いBernard Evans氏が少数の薄片写真について非常に熱のこもった説明をされていて，研究者とはかくあるものかと感動した．この日のポスターセッションには，地球化学全般に関する14件に加え，有志によって再度貼り出されたポスターもあった．

今回の会議では，レールゾライトを中心としたかんらん岩研究と一口に言っても，構造地質学，変形学，変成岩研究，同位体地球化学，メルト-岩石の相互作用，地球化学，実験等，様々な角度からマントルを理解しようとする研究を見聞きすることができた．著名な研究者と話し，各国の若い参加者に触発され，英語でコミュニケーションをとる機会に恵まれたことはとても価値のある体験である．口頭発表中の議論が活発に行われ，ときにジョークも交えながら研究者たちがやりとりをする様子は海外の学会ならではの光景ではないだろうか．20分発表，10分質問という時間配分も長く感じなかった．残念だったのは，ポスターセッションの時間が短いことである．興味深い研究が多い中，90分間しか議論の時間が割り振られていないこと，ポスターは当日中に回収されてしまったために，内容を理解し，気の済むまで質問するには不十分であったように思う．次回は４年後の2012年にモロッコで開催，との予定が最終日に決まった．この分野と国際会議の更なる発展を祈る．

（写真２）巡検中，Shasta山の火山砕屑岩に覆われた場所に集まった参加者たち．

最後に，この素晴らしい会議を企画・運営してくださったPeter Kelemen氏，Henry Dick氏にお礼申し上げます．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

tsuji@sci.ehime-u.ac.jp	**辻　智大（愛媛大）**
s059702@matsu.shimane-u.ac.jp	**河野重範（島根大）**
duketogo13@hiroshima-u.ac.jp	**東郷徹宏（広島大）**
v.fonda@akane.waseda.jp	**本田豊也（早稲田大）**

専門部会への登録をお願いします．

現在，地質学会には下記の13の専門部会があります．その活動は部会によって様々ですが，年会の折にランチョンを開催したり，行事委員会に部会代表委員を出して年会プログラムの編成，部会として各賞の推薦なども行っています．また，各部会のメーリングリストでは，より専門性の高い議論や，シンポジウム・巡検案内などの様々な情報がタイムリーに交換されています．今後は，専門的な学術活動を担う組織としてさらなる充実が期待されています．

今までも会員の皆様へ部会登録をよびかけてきましたが，名簿やメーリングリストが整備されていないなどの状況があり，取り組みが遅れ気味になっておりました．このたび，News８月号やgeo-Flashでお知らせしたように，会員情報の変更がネットで可能になり，専門部会への登録情報の確認や更新もできるようになりました．

そこで，すでに部会の活動に参加されている方も含めて，改めて全ての会員の皆様が，専門部会の登録をホームページ上から行っていただくようお願いいたします．専門部会に所属するための条件は，特にありません．会員であれば専門によって希望する部会に，自由な意思で参加することができます．複数の部会（とりあえずは３つまで）に参加することも可能です．このシステムを利用することで，名簿などが整備され，メーリングリストの構築なども容易になります．

これを機会に会員の皆様が専門部会の活動に関心を持ち，積極的に参加されるようお願いいたします．

■　現在活動中の専門部会は以下の13です．

岩石部会/層序部会/第四紀地質部会/海洋地質部会/情報地質部会/構造地質部会/古生物部会/環境地質部会/堆積地質部会/現行地質過程部会/応用地質部会/火山部会/地域地質部会

登録は，学会HP＜http:www.geosociety.jp＞の会員ページから行っていただけます．

なお，会員ページへのログインには，会員番号からなるIDとパスワードが必要です・ログイン情報が不明の方は，学会事務局までお問い合わせ下さい．

（日本地質学会理事会　担当理事　**藤本光一郎**）

2009年度の会費払込について

会則により，次年度分の会費を前納下さいますようお願いいたします．2009年４月～2010年３月の会費額は下記の通りです．
基本的な請求額は下記（①）の金額です．アイランドアークを印刷物で購読されている方は②の金額を加算します．

会員資格	①2009年４月～2010年３月分会費	②アイランドアーク購読料 （購読者のみ請求）
正会員	12,000円	8,000円
〃　院生割引　※	8,000円	6,000円
準会員（学部学生）	5,000円	6,000円

※注：大学院に在籍し，定収のない方で所定の申請をされた方のみに適用します．まだ申請されていない方は早急に手続きして下さい．なお，**2008年度分までの会費についての申請は終了しておりますので，2009年度分会費にのみ適用となります．**

１．自動引き落としを登録されている方は12月24日（水）に引き落としを行いました．

2009年度分会費は12月24日に引き落としを行いました．請求書ならびに引き落とし通知の発行は省略させていただきますのでご了承下さい．引き落とし額は基本的には2009年度分会費およびアイランドアーク購読料（印刷物受取の場合）です．これより以前に不足額がある場合には加算され，余剰金（繰越）がある場合はその分を減額して引き落としとなります．通帳には金額とともに「チシツカイヒ」あるいは「フリカエ」，「SMBC」などと表示されますので必ずご確認下さい．

２．上記以外の方（お振り込み）

12月中旬頃に請求書兼郵便振替用紙をお送りいたしました．折り返しご送金くださいますようお願いいたします．

３．自動引き落としをご利用下さい．

12月24日の引き落としには間に合いませんが，請求書に同封の書式にてぜひ自動引き落とし申込をお願いいたします（お申込数によっては2009年２月または３月にも引き落とし手続きを致します）．徐々にご利用は増えていますが，学会としては自動引き落としによる払込をより多くの会員に積極的に採用していただきたく，ご理解とご協力をお願いいたします．自動引き落としを希望する方は，「自動払込利用申込書」（2008年10月号巻末掲載）をお送り下さい．

（日本地質学会会計委員会）

2008年岩手・宮城内陸地震等の災害に関連した会費の特別措置のお知らせ

本年において災害により被害を受けられた皆様に，心よりお見舞い申し上げます．

日本地質学会では，災害救助法適用地域で被災された会員の方々のご窮状をふまえ，理事会で検討の結果，以下の措置を取らせていただくことにいたしました．

「日本地質学会に届出の住居または勤務地が災害救助法適用地域に該当する会員のうち，希望する方」は2009年度（平成21年度）会費を免除することといたします．

この措置の適用を希望される会員は，学会事務局までお申し出下さい．お申し出の方法は，郵送，FAX，e-mailのいずれでも結構です．締切は，2009年２月13日（金）までとさせていただきます．なお，2008年度中に，他の災害により災害救助法の適用を受けた地域で被災された会員の方々も，今回の措置をご希望の場合にはぜひお申し出下さい．

※通常の会費払い込みについては，上記「2009年会費払い込みについて」をご参照下さい．

2008年12月10日
日本地質学会　理事会

2009年度（2009.4～2010.3）院生割引申請受付中！

日本地質学会では，会費の院生割引制度が設けられています．定収のない院生（研究生）については，本人の申請により院生割引会費が適用されます．
＜注意＞毎年更新となりますので，今年度の割引を受けている方で，次年度も該当する方は改めて申請して下さい（今年３月まで院生（研究生）の方も申請すれば適用）．

最終締切：2008年２月27日（金）

詳しくは，学会HP会員のページ（会員番号によるログインが必要です）または，ニュース誌をご参照下さい．

デジタルクリノメーター GeoClino

走向/傾斜や線構造を1回の操作で簡単に測定

税込価格 ¥49,800

デジタルクリノメーター「GeoClino」は、従来の測定方法とは異なり層理面に当てるだけで走向・傾斜を同時に測定することができます。さらに、測定の難しい線構造も簡単に測定することができるので、測定時間の大幅な短縮が見込めます。

GeoClinoは測定データを本体メモリ内に999個まで保存し、付属のケーブルを接続してパソコン側へ転送することができます。

また、GeoClinoは耐水機能を完備しているので野外調査でも安心してお使いいただけます。

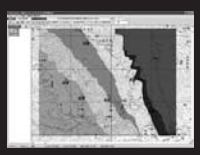
【走向傾斜の測定風景】

【線構造の測定風景】

外形寸法：約142×69×26㎜　電源：単3アルカリ電池2本で約20時間連続使用可能

・便利なソフトウェア「GeoAssist」が付属

GeoAssistでGeoClinoから測定データを収録し、地図上に走向・傾斜を表示することができます。
また、走向・傾斜データから簡易地質図を作成することもできます。



さらに便利なGPS搭載版"GeoClino-G"!!

・GeoClino-G（GPS搭載版）　税込価格 ¥82,000

GPS機能を搭載しており、走向/傾斜・線構造の測定時に緯度・経度を捕捉して計測データと共に位置データを保存できます。

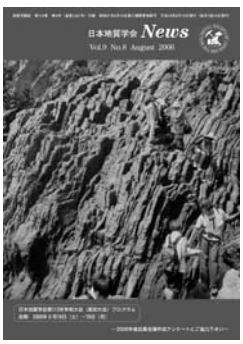
GSI ジーエスアイ株式会社
〒310-0805 茨城県水戸市中央2-8-37 茨城県味噌会館2F
TEL: 029-302-5238 FAX: 029-302-5248

お問い合わせはこちらから
http://www.gsinet.co.jp

広告募集

News誌に広告を掲載しませんか.

News誌の掲載広告を募集しています．学会の直接取り扱いになりますので，カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．ぜひご利用ください．



＜広告掲載価格表＞

	価格（モノクロ）	版下作成	カラー
表 4	60,000	＋10,000	＋10,000
表 2	50,000	＋10,000	－
表 3	40,000	＋10,000	－
普通	35,000	＋5,000	－

（単位：円）

申込・問い合わせ：日本地質学会事務局
電話　03-5823-1150　FAX　03-5823-1156
e-mail ; main@geosociety.jp

会員情報の変更がネットでOK!

平素は学会ホームページをご活用頂きありがとうございます．日本地質学会ホームページ（http://www.geosociety.jp）では、会員情報のオンライン編集機能をご用意しています．ホームページにアクセスして頂き，会員ページにログインしますと、

住所，メールアドレス，専門部会などなど皆様ご自身の登録情報の確認と更新ができます．

大変便利です．どうぞご利用下さい．なおセキュリティのためにもログインパスワードの管理（定期変更など）をどうぞよろしくお願いいたします．なお従来の郵送やメールでの変更サービスも継続しております．

日本地質学会　検索

住所変更
所属先変更
専門部会の登録
・・・などなど

ここから変更できます。

学会ホームページにアクセスして下さい。

http://www.geosociety.jp

©日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp